

Tsukuba

COMMUNICATIONS *Summer*

対談

スポーツ立国日本を目指す これからのスポーツと教育

株式会社 サイファ代表取締役

筑波大学 副学長・理事
附属学校教育局長

三屋 裕子 氏 × 東 照雄



- ⑧ 特集 グローバル教育院
- ⑩ 聴 中田由夫 准教授
- ⑫ 学内組織紹介 アドミッションセンター
- ⑭ 名物先生登場 安部博志 主幹教諭(附属大塚特別支援学校)
- ⑯ Sports Club 女子バレーボール部
- ⑰ Art & Culture つくば鳥人間の会
- ⑲ TOPICS イベント/地域貢献/受賞
- ⑳ OB&OG 中川千恵美さん
- ㉓ リレーエッセイ
- ㉔ つくばNOW
- ㉕ つくばSupporters
- ㉖ 新聞掲載・テレビ放送一覧
- ㉗ イベントカレンダー





スポーツ立国日本を目指す これからのスポーツと教育

株式会社 サイファ代表取締役

三屋 裕子 氏 × 東 照雄

筑波大学 副学長・理事
附属学校教育局教育長

身長コンプレックスから スタートした バレーボール人生

東: 三屋さんは、本学の4期生でいらっしやいます。大学時代から全日本代表として活躍されて、国民の人気プレーヤーでしたね。1984年のロサンゼルスオリンピックでは、銅メダルを獲得されました。誰もが気になるところだと思うんですが、どうしてバレーと出会ったのか、どういうきっかけでバレーを始めたのかというところからまずお話をしていただけますか？

三屋: 小学生の頃はスポーツをするという人間ではなかったんです。喘息があって、夏はプールに入っては熱を出し、冬は扁桃腺が腫れて高熱を出す、という感じでしたし、内臓も丈夫ではありませんでした。その頃の自分は、いつもお布団の中で本を読んでいた、と

いう感じです。

東: イメージできません(笑)。

三屋: そうでしょう(笑)。小学校5年生くらいの時から、急に背が伸びだし、小学校を卒業する時には、170cmくらいになっていました。その頃は、ただ背が高いというだけで、いじめられたりとか、いろいろと嫌な思いをしたので、とにかく自分のことが嫌でした。そんな感じで中学校に入学したら、担任でもない知らない先生から、「背中丸めて、下向いて、人と目を合わせないようにして歩いているけれど、もしかしておまえは、自分の身長が嫌なのか」と、声を掛けられたんです。「嫌です」と答えたら、「一生おまえから取ることができないものを、嫌だと思っている限り、おまえにはずっと欠点がついてまわる。活かそうと思う気持ちはないのか。バレーをやったら、おまえが欠点だと思っているものが財産に変わ

る可能性が出てくる」と言われて…その先生が、バレーボール部の顧問だったんです。それまで、そんな風に考えたことがなかったので、「そんなにかっこいいことがあるのか」と思って、バレー部に入りました。

東: そういうきっかけとは、想像していませんでした。

三屋: 好きとか、憧れてとか、アスリートに多い導入とは全く違いますからね。バレーとの出会いは、ものすごく偶然だった気がします。

東: 出会ってそういうものですよ。教育の場面では、学生にとっても児童・生徒の場合も先生とのコミュニケーションが本当に大事です。自分の人生に影響がある先生との出会いが、結構あるようです。

三屋: ジュニアの育成に携わっていた時には、「バレーが好きだけど、向いていない子に対して、どうアプローチ



していけばいいのか」というのと、「バレーにあまり熱心ではないけれど、向いている子のモチベーションをいかにアップさせるか」ということに苦心しました。私の場合は、興味はないけれど、向いていたところに、目をつけてくださった指導者との出会いがあったということが、人生最大のラッキーです。

東:教育は、学生・児童・生徒の将来を考えて導いていくものですね。そして、一番大切なのは真心。真心で接していないと、相手を感じてくれなくて、せっかく言ったことも、ちゃんと受け取ってもらえません。三屋さん、その先生との出会いがあって、本当に良かったと思います。

三屋:その先生は、私の将来のことをすごく考えてくださいました。父も母もバレーをやることに反対でしたが、親元を離れて八王子実践高校でバレー

ができるように、説得してくださって。一方で、八王子実践の監督の先生にも掛け合って、「バレーだけでは将来が不安だから、学校の先生にさせたい、という親の想いがあるので、高校3年生の進路決定の時には口出しをせず、行きたいところに行かせること」という約束を取り付けてくださったのです。

東:それで本学に進学できたわけですね。

三屋:当時、オリンピックを目指そうという人間は、実業団に進んでいました。高校選抜で日の丸をつけた人間が大学に行く、という前例がなかったので、波紋呼びましたね。「大学に行くってことは、オリンピックをあきらめたということだよ」と言われましたが、両親の意見だけでなく、私自身も、教職に就きたい、人を育てることに関わりたいという気持ちがあったので、大学に進学することにしました。

東:本学を選んだのはどうしてですか？

三屋:筑波大は、私が入った年に1年から4年まで全学年揃うという年でしたし、体育を目指すのであれば最高の環境、というようなお話をいろいろ聞いたので選びました。

01

いっぱい泣いた 筑波大学時代

東: 本学に入ってから的大学生活はどうでしたか。そのあたりを教えてください。

三屋: 泣きましたね。

東: 練習がきつくてということですか？

三屋: 両立が厳しくて。高校時代がバレーボール漬けだったので、英語の授業などについて行くのが大変でした。周りの人間が笑っているのに、自分だけ笑えないという、まさに笑えない状況があって…。授業の復習をして、次回の予習をしておかないとついていけない。でも、10時過ぎに練習が終わって帰ってきて、それから食事して勉強すると、夜中の1時くらいになりますよね。そうすると、疲れて、集中できなくて、狭い学生宿舎の

中で、ものすごい孤立感が押し寄せてくるのです。大学1年の1学期の間は、本当にいっぱい泣きましたね。

東: 偉いですね。ちゃんと予習、復習をして。

三屋: 全日本の合宿や遠征の時も大変でした。大学3年の時に、モスクワオリンピック（※直前にボイコット）の強化合宿が大阪であったのですが、月曜と木曜に絶対に休めない授業があったので、戻って来ていたのです。

東: 毎日が必死だった様子が伝わってきます。本学では、体育専門学群の学生は、文武両道を目指すというか、学業をやった上での話だという教え方は今も変わりません。三屋さんは、大学に進学したらオリンピックは無理と言われたのに、全日本代表に選ばれたわけです

から、学業とスポーツがみごとに両立できたわけですね。

三屋: 初めて、代表に選ばれた時、バレー部の部長だった朽堀先生に、「学生だからといって肩身の狭い思いをしなくていい。胸を張って、学生でもやれるところを見せてこい」と送りだされたのが心強かったです。

東: バレーボールと学業以外の学生時代の思い出という？

三屋: あの頃は、本当に何もなかったんですよ。居酒屋などもなく、宿舎の中を行ったり来たりしながら、飲み会をしていました。体専同士やクラスの飲み会や…学生の横の付き合いが多かったですね。

東: その点では変わってきていますね。学生同士の横のつながりが、希薄になってきていると感じます。これは時代の流れなのでしょう。

三屋: 筑波で教えてもらったことって、ひとつは、がんばって勉強とスポーツの両立、もうひとつは、お酒を飲むこと、という感じですね(笑)。



ひがし てる お
東 照雄 筑波大学副学長・理事
附属学校教育局教育長

1949年 熊本県生まれ
1975年 九州大学大学院農学研究科修士課程農芸化学専攻修了
1975年 鹿児島大学農学部助手
1988年 筑波大学応用生物化学系 助教授
1999年 〃 教授
2003年 〃 応用生物化学系系長
2004年 〃 大学院生命環境科学研究科教授
2006年 〃 生物資源科学専攻長
2009年 〃 大学院生命環境科学研究科系長
2011年 〃 副学長
2012年 〃 副学長・理事

悩んで選んだ実業団入り。 ロサンゼルス五輪で 銅メダル獲得

東: 卒業後は、日立バレー部に入られたわけですね。

三屋: モスクワオリンピックが開催直前でなくなりましたので、私は、オリンピックに縁がなかったのかもしれない、卒業したら先生になろうと思って、その準備をしました。でも、ここまで練習したのに、ただの一回も世界を見なくていいのかという思いもあって。かなり悩みましたが、監督も教育大の卒業生でいらっしやっしたし、私のバレーに一番合っていると思った日立に入ることにしました。

東: 日立が一番強いチームでしたね。

三屋: はい。当時、日立は、実業団の中で一番練習するチームで、厳しいと言われていましたが、入った時に、「なんて楽しんだらう」と思いました。帰ってから勉強しなくていいんですから(笑)。ロサンゼルスオリンピックの前は、プレッシャーも

あって、かなり厳しかったのですが、それでも、筑波の1~2年の時の方が、精神的にも肉体的にもきつかったと思います。

東: 日立に入って3年目で、ロサンゼルスオリンピックに出場され、銅メダルを獲得されました。その時は、どういうお気持ちでしたか？

三屋: 「負けて悔しい銅メダル」でした。金メダルしか考えていませんでしたし、それまでの女子バレーは、決勝に残って当たり前でしたので、決勝に残らなかったということで、伝統に泥を塗ったというような申し訳なさを感じました。

アスリート育成と、 スポーツを生涯楽しむ 環境作り

東: 今の感覚でいくと、日本の女子バレーは必ず金じゃなければいけないという感じじゃないですよね。そこまで社会的な期待はないような気がしますけれど。

三屋: 出場するだけでおめでとうと言われて、女子バレーというブランド力がなくなっていることを痛感しました。

東: どうしてそうなったのでしょうか？

三屋: 1つには、バレーが人気絶頂の時代に、何も手を打たなかったということがあると思います。人気落ちてきてから慌てて環境を整えても、なかなか成果は出ないんですね。女子スポーツがたくさん増えて、少ない女子を奪い合うという状況ですから。

東: 裾野を広くしておく、より安定化するし、将来に向かって発展があるものですね。これも教育に通じますけれど、まず、関心を持ってくれる集まりというのを大事にしていかなければならないと思います。

三屋: 本当にその通りです。もう1つには、指導者の問題があります。今でもまだ、小学校でバレーボールをやっている女の子は多いのですが、中学に入ると急に減ってしまうのです。その理由として、小学生を教えている指導者が、その子の将来よりも、その時に、そ

の試合に、勝てばいいと考えているということがあります。早期育成型で、バーンアウトさせてしまうのです。手遅れに近いんですけど、今、とにかく、ジュニアスポーツとしてのバレーの拡大・普及と、それに携わる方々の育成をしないとダメです。

東: 少し話が飛ぶかもしれませんが、昨年、東日本大震災がありましたよね。その時にテレビで、少年がサッカーボールを抱えて、「これがあれば生きていける」と言っていたんです。それを観たときに、「スポーツは、その人が生きていく上で、ものすごく大きな力になる」と思いました。競技種目としてのスポーツには大事な面がいっぱいありますが、一方で、一般的なスポーツを、人生の中でどううまく付き合っていくか、

ということ、子どもの時から考えるような環境が必要なのではないでしょうか。日本も、国として、遅まきながら、「スポーツ立国戦略」を策定しましたよね。誰もが、小さい頃からスポーツと慣れ親しむという素地があれば、途中で、発展的エネルギーが損われることはないと思います。一流の競技選手を育てることも、ものすごく大切ですが、それを支える底辺を、国家的、あるいは社会的に作っていく必要があるのではないのでしょうか。

三屋: そうですね。好きだけど、競技者になるには向いていない人たちが、挫折してスポーツを断念してしまうのではなく、普及の方に行ってもらえるように、うまく方向付けできるといいと思います。



みつ や ゆう こ
三屋 裕子氏 株式会社 サイファ代表取締役

1958年 福井県生まれ
1977年 八王子実践高校卒業
1979年 全日本代表入り
1981年 筑波大学 卒業
1981年 日立女子バレーボール部 入部
1984年 ロサンゼルスオリンピック 銅メダル獲得
1994年 筑波大学大学院 修士課程コーチ学専攻修了
1998年 筑波スポーツ科学研究所副所長

スポーツの持つ大きな力を再認識した東日本大震災

三屋:先ほど、東日本大震災というお話が出ましたけれど、私は、昨年4月から、月に2回ほど、被災者の仮設住宅で、ボランティア活動をしています。高齢者の方々の健康づくりをしないと、どんどん衰えて行くんですね。昨年よりはるかに弱ってきている方が多いです。それで、そういう方々を外につれ出して、ストレッチと軽く体を動かすという、気晴らしみたいなことをさせていただいています。

東:1年以上、月に2回も続けていらっしゃるんですね。

三屋:福島の避難所に行ったのが最初なんですけど、みなさん、着の身着のまま、全員下を向いていました。いきなり体を動かしましょうなんて、とても言えないので、お話をして、最後に、ちょっとだけ体を動かしてもらったんですね。すると、それまで全く表情がなかったのに、みるみる表情が出てきたんです。そして、最後には、「ありがとうございます。震災以来初めて笑いました」と言っていました。「スポーツの持つ力ってものすごいな。ちょっと体を動かして、ボールをやり取りするだけで、こんなに気持ちが前に向くんだ」と感動しましたね。それまでも、「スポーツはいいですよ」って言い続けてきたのですが、スポーツの持つ本当の力のすごさを、震災ボランティアに行ったことで初めて知ったような気がします。自分が、これからもスポーツと関わって行こう、人と関わって行こう、という気持ちが強くなりました。

東:被災された方には、申し訳ない言い方になるかもしれませんが、震災後、多くの方が、人間はどうやって生きていかなければならないのかとか、スポーツの力とか、いろいろな今までなかったような価値観を見つけて、それを糧に再出発していると感じます。震災がもたらしたこうした新しい価値観を、学校の現場でも教えていますし、それが大切なことだと思います。



オリンピックとして、 経営者として、 本学をサポート

東:この4月から、本学の経営協議会のメンバーになっていただきました。

三屋:はい。よろしくお願ひします。

東:学長は、本学の出身であることだけでなく、今お話ししていただいたようないろいろな物の考え方や実践力、経営のセンスなどもお考えになって、委員を依頼したのだと思います。現在は、(株)サイファを経営されているんですよね。その会社はいつ頃作られたのですか？

三屋:1994年、大学院の2年生の時からです。マネジメントとスポーツイベント企画の会社ですが、経営しているというほどの会社はありません。経営の経験といえば、神戸にある上場企業の社長を、2004年から3年ほど勤めたこ

とです。従業員が600人くらいいて、その人たちのその家族を含めた方々全ての人生を預かるわけですから、すごく責任を感じました。経営状態をとにかく改善する、というのがいただいたミッションでしたので、リストラをしたり、それまでのやり方を見直したりして、コストダウンをしました。2年間ぐらい必死に取り組んで、コスト的には、20億くらいの利益を出すようにしたのです。

東:筑波大学の経営に関しても、ぜひその手腕を発揮していただきたいです。そして、実は、他にも三屋さんに、お願いしたいことがあります。本学の体育専門学群長の真田久教授が、オリンピック・ムーブメント※について、いろいろな国で学んで来られ、JOAやJOCとタッグを組みながら、学内に、「オリンピック コア※」という委員会を作りま

※【オリンピック・ムーブメント】

国際オリンピック委員会(IOC)は、世界中でスポーツを振興するとともに、スポーツを通じた「心・身・知」のバランスのとれた人間の育成と国際理解・国際平和の推進をその活動理念としており、この理念を普及していく活動をオリンピック・ムーブメント(オリンピック運動)と呼んでいます。

※【オリンピック教育】

オリンピック教育とは、教育を通して、オリンピック・ムーブメントの普及を推進することであり、スポーツやオリンピックを題材にして、国際理解を深め、国際平和の重要性を理解し、他(者)に貢献し得る力を養うための教育です。具体的な実践内容としては、オリンピックの理念と歴史の学習、オリンピックに関連した文化や社会問題等に関する学習、オリンピックの精神やスポーツの価値についての学習などが挙げられます。

※【オリンピック コア(オリンピック教育プラットフォーム)】

本学に2010年に設立した、日本で初めてIOCの公認を受けたオリンピック研究センターです。11の附属学校と協力してオリンピック教育を実施するとともに、オリンピック研究・教育の拠点として国内外関係諸機関と交流を進めています。

03

した。私は、TSA(筑波スポーツアソシエーション)の担当副学長でもあるので、オリンピック・ムーブメントにおけるオリンピック教育*について知ったのですが、いわゆる、オリンピックを作るための教育ではなくてですね。オリンピックの中にある、国際平和とか、人類愛とか、そういう精神の部分をまず教育していくというものなんです。

三屋:筑波大学らしい試みですね。

東:嘉納治五郎先生の考え方に符合するのを感じます。昨年、国立スポーツ科学センターで、国際シンポジウムを開きましたら、アジア各地からたくさんの方が集まったのですが、話を聞いていると、どうも、日本が一番遅れているようなんです。他の国では、そういう教育を、小学校からやっているらしいのですが、そういうことを学んでいる生徒・児童は、当然オリンピック自体にも関心を持ちますし、オリンピックの意義や理念を深く理解します。本学として、あるいは日本として、この教育に、もっと積極的に取り組んでいく必要があります。そのためには、オリンピックとか、オリンピックに関わってきた人の協力が絶対に必要で、三屋さんにも協力していただきたいのです。機会を設けますので、オリンピックをどう考えていったらいいのかとか、オリンピックとはいったいなんなのかということについて、ぜひ、お話しいただきたいと思います。

三屋:喜んでご協力します。

「筑波に自分の足跡を残す」という気持ちで勉学に勤しんで

東:最後に、本学と本学の学生に一言お願いします。

三屋:筑波大学は、本当にフロンティアスピリットを持った大学です。自分がやりたいことが何でもできる。これをやれ、と決めつけられたりしないところが大好きです。自分がしっかりあれば、いくらでも活かしようのある大学で、そこが

ものすごく魅力的だと思います。

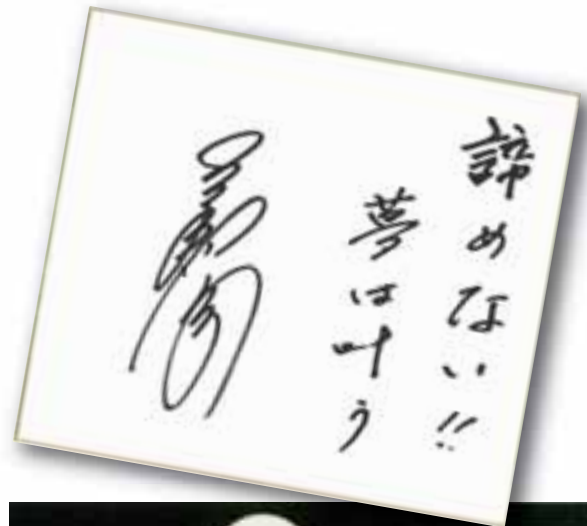
東:それは僕も感じます。

三屋:それと、開かれた大学という理念がありますよね。私たちは入学式が外だったんですよ。グラウンドでやって、「これが開かれた大学の形？」って思ったんですけど(笑)。でも、あの頃から、開かれた大学ということを一生涯懸命に打ち出そうとされていた先生方も多かったですし、我々も、そのことを全身で受け止めていました。大学が開かれた大学ということを出しているからこそ、学生の皆さんには、もっと、自分の心も人の心も開いた状態で、勉強してもらいたと思います。そして、筑波大学の学生であることに誇りを持って、「筑波に自分の足跡を残すんだ」というくらいの気持ちで、勉学に勤しんでもらいたいですね。

東:他に大学への要望はありますか？

三屋:そうですね。筑波は、私にとって、第二の故郷だと思っています。だからこそ思うのですが、卒業してからの横のつながりが、他の大学に比べて、少し薄いような気がして残念です。全国どこへいっても、「一緒に肩を組んで桐の葉を歌おう」というようなつながりを作ってもらいたいというのが、卒業生の一人として強く願いたいことです。

東:そこは、今まさに強化しようと努力しているところです。何をやるにも、コミュニケーションが大事ですよ。コミュニケーションがなければ、何にもできません。教育の原点もコミュニケーションです。筑波の学生は、それをもう少し意識して、今後世界に羽ばたいて欲しいと思いますね。学長も、それを「IMAGINE THE FUTURE.」というロゴを掲げて、「個を大事にして、開かれた未来を想え」と仰っています。先ほどもお願いしましたように、今後とも、本学をいろいろな面から支えてくださいますよう、よろしく願いいたします。



グローバル教育院

「グローバル教育院」は、学士課程または大学院課程において、分野を横断する学位プログラム等の実施・運営を行い、グローバルリーダーとして活躍する人材を育成するための組織として設置されました。

本学は、教育の実質化を進める目的で、これまでのような教員の研究分野を基盤として行われていた学群・学類、研究科・専攻等における教員の研究分野と即一体化した教育の在り方ではなく、学位の取得を目指す学生の視点に立って、その学位のレベルや分野に応じて修得すべき能

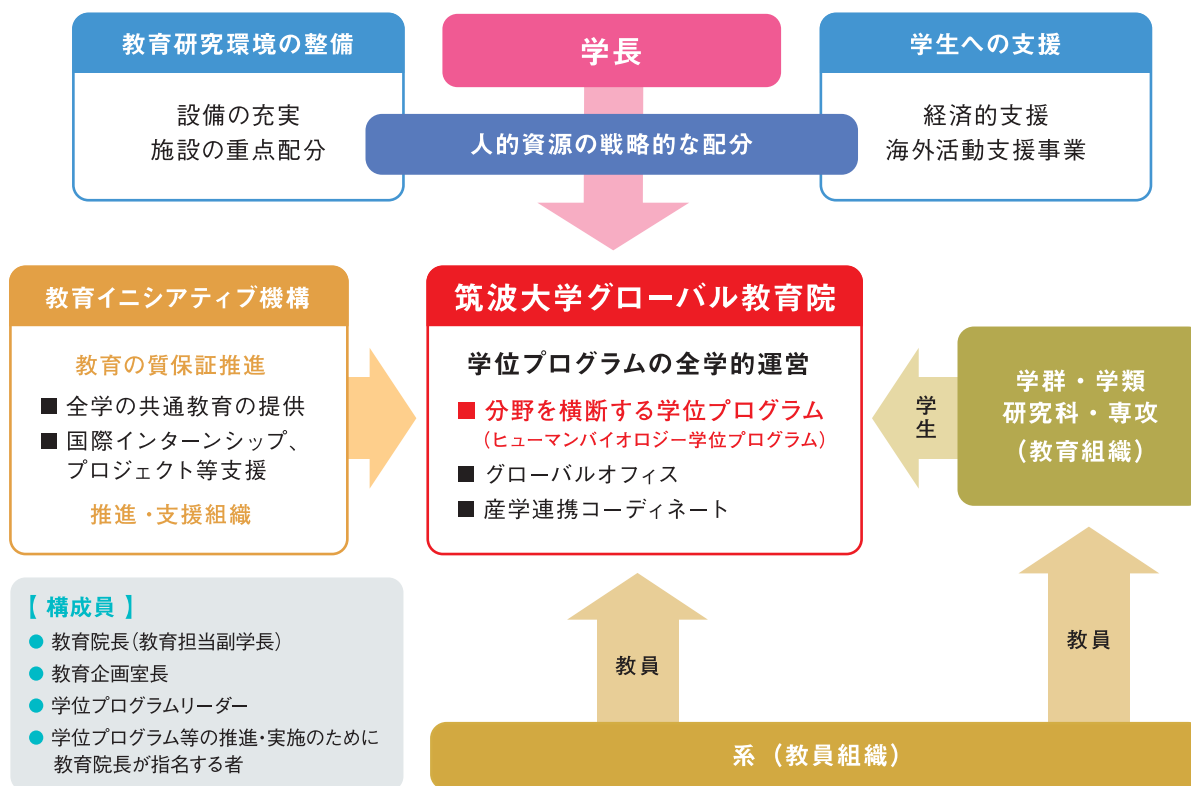
力を身に付けることができるように、学生中心に体系的に整備する「学位プログラム」教育システムへの移行を準備しています。

特にインターディシプリナリーな学位プログラムの創設は、本学の建学の精神に基づいた学生の視点に立つ構想であり、有効な支援・運営を行う

ために、平成23年12月に「筑波大学グローバル教育院 (School of Integrative and Global Majors)」を設置し、「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された学位プログラムや、それを旨とする学位プログラムの受け皿として機能させています。

学長のリーダーシップのもとに学位プログラム化を推進

— 学位プログラム実施へのリソースの戦略的配分 —



【グローバル教育院が行う事業等】

- リーディング学位プログラムの実施等に関する統括的な業務を行います。

分野を横断する学位プログラムの実施・運営を行います。個々の学位プログラムについては、グローバル教育院に学位プログラム教育会議を組織して実施します。

- 産学官金連携協働教育

JAPIC、国際交渉力強化プログラム等の教育プログラムの企画・実施等、産学官金(金:金融機関)と連携し、分野を横断し提供する教育プログラムを企画・実施します。

- その他分野を横断する学位プログラム等を推進する事業を実施します。

【ヒューマンバイオロジー学位プログラム】

平成23年度に、文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム※」に採択され、現在、グローバル教育院で実施している学位プログラムです。

生命科学、医学、計算科学、物質科学を横断した複合的方法論を駆使して、ヒトの生命の維持、適応、継承のメカニズムを理解し、これらに関する研究力、専門力を習得した上で、ヒトが人らしく生きる社会の創造を先導できる国際的リーダーを養成しています。

【特色】

- 教員は、分野の枠を超えてグローバル教育院の学位プログラムを担当します。

分野の枠を超えて、世界トップレベルの学位プログラムを実施します。そして、俯瞰力と独創力を備え、広く産学官金にわたりグローバルに活躍するリーダーを育成します。また、国内外の第一級の教員・学生の結集と、産学官金の参画をはかります。

- 産学官金と連携し、協働で教育を企画、立案および実施します。

社会が求めるニーズが把握でき、教育を展開することができます。

- 大学が直接運営する教育組織です。

※博士課程教育リーディングプログラム

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業。

Message

筑波大学グローバル教育院長からのメッセージ

本学は、教育改革の一環として学位の質保証をめざした学位プログラム化の改革を進めています。ここでいう学位プログラムとは、学生による学修成果を重視する観点から、学生が学士・修士・博士・専門職学位といった学位を取得するに当たり、当該学位のレベルと学問分野に応じて達成すべき能力を明示し、その能力を学生が修得できるように体系的に設計された教育プログラムを指します。現在、学士課程及び大学院課程において、3つのポリシー、つまり学位授与方針、教育課程編成方針、入学者受入れ方針を策定しつつあり、従来の組織中心の考え方から学生中心の学位プログラムの実現をめざしているところです。

さらに、学術分野横断的な学位プログラムの創成は、本学の建学の理念を具現化する重要な方策です。学術分野横断的な学位プログラムの教育研究を推進する目的で、昨年度、新たに教育担当副学長をヘッドとするグローバル教育院を設立いたしました。グローバル教育院は、多様な学位プログラムや教育プログラムを集約して、従来の研究科・学群と同じような運営のための機能を発揮します。

このたびの博士課程教育リーディングプログラムに採択された「ヒューマンバイオロジー学位プログラム」は、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産学官金の参画を得ながら世界に通用する質の保証された最

高学府に相応しい大学院教育をめざしています。グローバル教育院では、この学位プログラムを契機に、本学の学位プログラム化をいっそう促進させ、国内外の大学改革の先導的役割を果たしていきたいと考えています。引き続き各方面からのご協力とご支援をお願いいたします。

阿江 通良



食事で500カロリー減らすには

メタボが進行した方に減量指導をする場合には、栄養の働きで分けられた4つのグループをバランスよく取る「四群点教法」を理解していただき、カロリーガイドブックで確認しながら食事記録をつけて、目標とする摂取カロリーの食事ができるようにします。

しかし、そこまでするのは、なかなか大変です。食事で500カロリー減らすということを知りやすく説明してみよう。マクドナルドで、ビックマックとフライドポテトとコーラを注文していたとします。これで1139カロリーです。ダブルチーズバーガーとサラダとコーヒー(ミルク・砂糖入り)に変えると、620カロリー。この1食だけで、500カロリー減らすことができました。

カロリーの大幅カットできたのは、サイドメニューをフライドポテトからサラダに替えたからです。油はカロリーが高いので、できるだけ控え、野菜の量を増やすことを心掛けましょう。野菜を焼いたり、煮たり、蒸したり、汁物に入れたりしてたっぷり食べ、あとは少しのご飯と肉や魚。これで、自分はしっかり食べた気になって、バランスがよく、カロリーの低い食事が取れます。

ただし、本能に任せていたら、人間の体は、収支が釣り合うようにエネルギーを

要求しますから、ダイエットは意識的にやらなければ成功しません。体にとってエネルギー不足の状態なので、お腹が空いて当たり前です。お腹が空いて我慢した時に、今溜まっている脂肪を分解して糖に変えて、エネルギーにするわけです。

朝・昼しっかり食べ、夜は控えめに

朝・昼は、食べた後に活動して、摂ったエネルギーを消費しますが、夜は寝るだけなので、脂肪に変える時間をたっぷり与えることになります。しかも、寝ている間に成長ホルモンが出ますから、脂肪がつきやすい。寝る直前に食べることは、特に危険です。朝・昼しっかり食べて、夜は控えめにする。寝る前2時間くらいはなるべく食べないようにしましょう。

運動で500カロリー消費するには

一方で、運動で500カロリー消費するには、どのくらいか。だいたい10分ウォーキングして50カロリー消費するので、毎日100分歩けば500カロリーの消費して、食事の量を変えず1ヶ月で2kgダウンできます。

しかし、毎日2時間近く歩く、もしくは、それ相当の運動するというのは、負担が大きいです。食事を減らすことと運動で消費することを組み合わせて取り組むことがお勧めです。

今までの生活より毎日10分多く歩き、50カロリー消費するという試みでも効果があります。食べる量を増やさなければ、それだけで、10ヶ月で2kg減らすことができるわけです。

有酸素運動と無酸素運動

ウォーキング以外の運動を選ぶ場合、無酸素運動より有酸素運動の方がいいといった話がありますが、エネルギーを消費するのは一緒です。アスリートのレベルでなく、普通の健康運動でやるレベルであれば、そうしたことを気にせず、やれるもの、やって楽しいものを、続けら

れそうなものといった観点で種目を選んでください。

また、腹囲を減らすために腹筋運動をするという話も聞きますが、脂肪が燃焼する時は、体の中で循環して燃焼していきますから、腹筋すれば腹囲が減るといえるものではありません。

やせ過ぎもリスクファクター

メタボの問題を取り上げてきましたが、やせ過ぎもまたリスクファクターです。日本の憂うべき状況かもしれませんが、若い女性の痩身志向が強まり、20〜30代女性のやせている人の割合が増加しています。

死亡率のデータは、Jカーブを描き、BMIが低ければ低い程、高ければ高い程死亡率が高くなっています。やせ過ぎの基準はBMI18.5。この数値は下回らないようにしましょう。

元気なうちにやせましよう



なか た よし お 中田由夫 准教授(医学医療系)

1976年 大阪府 生まれ
1999年 早稲田大学人間科学部スポーツ科学科 卒業
2004年 筑波大学大学院 博士課程体育科学研究科 修了
2004年 筑波大学大学院人間総合科学研究科 助手
2007年 筑波大学大学院人間総合科学研究科 助教
2012年 現職

メタボでも元気です。やせなければいけない理由は何ですか？

聴

厚生労働省の発表によると、40~74歳について、4人に1人がメタボリックシンドロームの該当者もしくは予備軍ということです。健康診断で、要注意と指摘された方もいらっしゃるでしょう。メタボはなぜいけないのでしょうか？ どうすれば予防・改善することができるのでしょうか？ 今回は、中田由夫准教授にお話を伺いました。

やせなければならぬ理由

質問にあるように、肥満とかメタボリックシンドローム(以下メタボ)というのは、自覚症状がなく、病気でもありません。健康と病気のはざまの状態といえます。なぜ問題視されるかというと、放置しておくと、脳卒中で亡くなるとか、心筋梗塞で倒れて後遺症が残る、糖尿病で失明する、腎不全に陥るといった、深刻な病気になる危険性が高いからです。

肥満から病気まではドミノ式になっていきます。生活習慣が悪くなることによつて、肥満が引き起こされ、高血圧や脂質異常、高血糖が起きてきます。この状態をメタボといいます。自覚症状のないまま着々と動脈硬化が進行し、いつかドミノが倒れて取り返しのつかない病気になるというわけです。ですから、どこかでこの流れを食い止めなければなりません。

そのタイミングが、健康診断で、肥満やメタボと診断された時ということになります。そこで気付いて生活習慣を改めれば、ドミノは倒れずにすみます。

肥満とメタボ

日本肥満学会は、BMIが25以上を肥満と定義しています(BMIの計算式: $\text{体重}[\text{kg}] \div \text{身長}[\text{m}]^2$)。

一方、メタボリックシンドロームの背景には、内臓脂肪症候群があります。肥満の中でも、特に、内臓脂肪型肥満がいろいろな病気にかかりやすいことから、近年、着目されています。

メタボと診断されるのは、腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上(CTスキャンによる内臓脂肪面積100cm²以上)という基準に加え、脂質異常、高血圧、高血糖の3項目から2つ以上該当する場合※です。

体脂肪率は目安に

太りすぎの判断材料としては、他に体脂肪率もありますが、体脂肪率を正確に測るとするのは、非常に難しいです。現在、各計測機器メーカーによつて測定方法が異なり、目安にはなりますが、基準にはなりません。

太るメカニズム

人間の体というのは、エネルギーを使った分だけ補充しようとしています。そのため、満腹中枢があるので、本来、自分の体の声に耳を傾けていけば、太ることはないはずなんです。太ったという方も、1年で1kgくらいずつ、徐々に増えてきたという方が多いのではないのでしょうか。そういう方は、ほんの少し、使ったエネルギーより食べ過ぎてしまったということです。

例えば、一日三食、適度な食事をした人が、風呂上がりにアイスクリームを食べることが習慣となったとします。そのアイスクリーム1個分、220カロリーのエネルギーは、行き場がないので、朝までに30gほどの脂肪となつて、体内に蓄積されます。

それを毎日続ければ、1カ月で1kgちかく増えるという計算になりますね。それが太るという状況です。



1kgと30gの脂肪モデル

1日マイナス500カロリーで、1カ月で2kg減量

人間の1kgの脂肪は、だいたい7000~7500カロリーです。例えば、1カ月で2kg減らしたいとすると、1万5000カロリーを30日で減らすわけですから、1日あたり500カロリーの減らせばいいということになります。

今食べている量と動いている量で、現在の体重を維持しているとして、そこから500カロリー分、運動して消費するか、食事の量を減らして、500カロリー分エネルギー不足の状態を毎日作るようにします。

【脂質異常】
※ 中性脂肪 150mg/dl以上
HDLコレステロール40mg/dl未満

【高血圧】
収縮期血圧 130mmHg以上
拡張期血圧 85mmHg以上

【高血糖】
空腹時血糖110mg/dl以上

16 学内組織紹介

アドミッションセンター

つくばキャンパスは、東西約1km、南北約4kmの自然に恵まれた広大なキャンパスで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な教育・研究組織がありますが、全てを知ることはなかなかできません。その組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。

アドミッションセンターは、1999年に教育・研究の充実発展に寄与するため、新たな視点での入学者の選抜をすることを目的として設置されました。現在は、それに加え、種々の選抜方法に関する調査研究ならびに各種ガイダンスでの入試広報にも力をいれています。



島田康行アドミッションセンター長

Introduce

先んじた実践と充実した体制

当センターの活動の中心は、アドミッションセンター入試（AC入試）の実施です。「1999年、東北大学、九州大学、そして本学の3つの国立大学にアドミッションセンターが設立され、その年（2000年度）から本学の入試にAC入試が導入されました。当初は6学類1専門学群で始まりましたが、2012年度には16学類2専門学群に拡大しています。この入試による入学者は入学定員の約4%に上っています」と島田康行アドミッションセンター長。

当時、中央教育審議会（中教審）の答申で「単なる一方的な選抜ではなく、よりよい相互選択を目指して」「多元的な評価尺度」というキーワードが使われるなど、入試制度のあり方が議論されていました。

一方、本学内でも、「将来にわたって、国際的に世界の大学と伍していくため、

いわゆる受験学力のみを評価尺度にして選抜するのではなく、違った物差しで、どの大学よりも優秀な学生に来てもらうにはどうしたらいいのか？」という議論がありました。そうした背景から、入試に「問題解決能力」という評価尺度を導入する事になったのです。

AC入試とは

AC入試は、学校推薦やペーパーテスト型の受験とは異なり、書類選考と面接・口述試験によって、受験生を多面的・総合的に評価する自己推薦型の入試制度です。

「AC入試の書類選考と面接・口述試験は、たいへんユニークなものです。形式も分量も制限のない自己推薦資料と、30分に及ぶ個別面接で受験生の学ぶ力を測っています。じっくりと時間をかけて書類選考を行ったのちに、複数の教員が30分をかけて面接を実施し、受験生が

主体的に研究に向かう資質をもっているかどうかを判断します」

一方、世間的には、「AO・推薦入試のような入試制度が、大学生の学力低下につながっている」と危惧する声もあがっています。しかし、島田センター長は、本学のAC入試に関してはそれを否定します。

「必要な基礎学力についても、書類審査と面接・口述試験によって確認できると考えています。例えば、面接・口述試験のなかで、『あなたは、英語による発表を行ったことになっていますが、どのような発表だったのですか？』とか、『こういう結果が導かれています。このプロセスではどういう計算がなされたのですか？』というように、自己推薦資料に基づきながら基礎学力を確認するような質問を工夫しています」

AC入試には、「問題解決能力」を重視



受験生への説明会



受験生に説明するアドミッションセンタースタッフ



オープンキャンパスの様子

するという各学類・専門学群共通の「アドミッション・ポリシー」があります。さらに、「問題解決能力」を基本としながら、各学類・専門学群がそれぞれ独自のアドミッション・ポリシーを掲げています。こうしたきめ細かなアドミッション・ポリシーを策定することになったのも、当センターの活動の積み重ねによる成果です。

AC入試による入学者に関してこんなデータがあります。本学では、学修の成果等が優れていると認められた学生を対象に「学生表彰」が行われ、例年20人前後に送られています。ここ数年はそのうちの約25%をAC入試によって入学した学生が占めています。前述の通りAC入試による入学者は全体の約4%ですから、入学後も積極的に研究等の活動に取り組む学生の割合がたいへん高いと言えるでしょう。

入試全般に関する研究と広報活動

本学のアドミッションセンターの活動は、AC入試の実施だけではありません。「入試の研究」と「入試に関する広報」も重要な活動となります。つまりAC入試を含めて、本学の入試の全般をアドミッションセンターが支えているのです。

「1999年以降、全国の大学のアドミッションセンターの教職員が集まる機会が設けられました。これは『全国大学入学者選抜研究連絡協議会』という組織で、その大会では入試に関する専門家たちが研究成果を発表しています。こうした流れが、いずれ『大学入試学』という学問に発展する可能性もあります。もちろんそれと同時に、本学の入試をよりよいものにしていくための研究を日常的に行っています」

一方で、本学の入試広報のため、日本中を飛び回っている島田センター長。全

国の高校への個別説明会や、地域の入試説明会などに参加するため、4人のセンター教員は、年間延べ数百もの説明会に出張しています。

また、当センターは、本学を希望する方が直接本学に来て、個別に相談できる窓口にもなっています。定期的にかかる説明会のほか、筑波キャンパスでは平日毎日、東京キャンパス文京校舎では月に2回、相談窓口が開かれています。

「高校生だけが受験生ではありません。例えばAC入試では、社会経験を積みながら、自分の研究を続け、受験することもできます。過去には、学類長よりも年上の方がAC入試で入学したという実績もあります」

筑波大学は国立大学としてはごく稀な、全国各地から学生が集まる大学です。全国の優秀な学生が本学に集まるよう、広報マンとしての活動は欠かせないのです。

附属学校の 名物先生 登場!

6

本学には、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に11校の附属学校があり、いずれもそれぞれの分野でわが国の教育をリードしています。
そこには、全国でも有名な先生たちが大勢います。
このコーナーでは、各学校の名物先生を順次紹介しています。

今回の先生

筑波大学附属大塚特別支援学校

あんべひろし
安部博志

主幹教諭

(特別支援教育コーディネーター)

Profile

長野県の小学校(通常学級)で4年間、盲学校で3年間担任をする。その後、東京都の小学校(特別支援学級)で7年間担任をする。この間、筑波大学大学院を修了し、1998年より附属大塚特別支援学校勤務。

文京区専門家チーム、就学相談委員、特別支援教育士、学校心理士

著書:『発達障害の子どもの指導で悩む先生へのメッセージ〜結び廻る;つながっていきます!』明治図書.2010.



講演や学校を巡回する コーディネーター

今回紹介する安部博志先生は、同校に所属しながら、文京区内の公立学校等に出向いて、子どもや保護者の相談、そして授業の改善などをアドバイスする「特別支援教育コーディネーター」として活躍している。特別支援学校が地域のセンター的な機能を担うという制度への法改正を受けて、他の学校の子ど

もたちを支援しに行くことも求められるようになってきた。安部先生は、全国を車で回っての講演などを含めると3000を超える園や学校を巡回してきた。車を駆っての全国行脚は自らの車で寝ることも多く「車寝る」と書いて「シャネル」とシャレ、「私は会社でいえば営業マンのようなものです」と言う、ちゃめっけとユーモアをもった朗らかなヒトでもある。現在は、文京区内の小学校などを自転車で回りながら、「頑張っているけれどなかなか報われない、まじめで頑張っている先生ほど悩んで壊れていっている状況があり、そういった先生たちに、教師の面白みを再認識してもらい、教師をすることのモチベーションを高めて欲しいという気持ちで活動しています」という。

いわば教師を支援し、教師を育てていく仕事とも言えそうだ。

「子どもをどう支援していくかということも大事ですが、それ以前に、もっと分かりやすい授業、教材の工夫、子どもたちにとって達成感のある授業ということをやれば、この子どもたちは救われるなと思うことが少なくないんです。だから個の支援というよりも、授業の質を高めるようなアプローチが必要だという信念で活動しています」

教師を支援することが、最終的には子どもたちに反映されるという信念にゆるぎはない。



発達障害などの子どもの対応に 苦慮する先生たちのために

最近一般のクラスに知的な障害を持たないけれど社会性がいちじるしく低いなど、いわゆる発達障害の子どもが増えているという。発達障害は全体の6.3%と言われており、ほぼクラスに1～2人くらいの割合でいることになる。そういった子どもへの対応で先生たちが苦慮している。発達障害の子どもにきちんと対応しないと、ひいては学級崩壊などの問題も起こってくるのだ。

自身も、かつて都立小学校の教師だったときに、自閉症の生徒の対応に悩み、それまで自分が持っていたノウハウでは太刀打ちできないと、35歳での本学小林重雄教授(自閉症研究の権威)に師事し本学大学院で夜間の修士コースに学んだという苦労人。大学院で、問題行動を起こしている生徒も、教師の側が変わることで、見違えるほど変わるということを目の当たりにしたことが、現在のコーディネーターとしての活動の源になっている。

「本校では、法律が変わる前の2003年からこの支援部を立ち上げています。それは本校が、いまの日本の教育課題について、発信できるものを持たなければならないという当時の校長の発想から、いち早く研究しようということでした」



授業をビデオに撮り ディスカッション

安部先生の授業改善の方法は、すべての授業を特別支援教育の視点で改善すること。その方法のひとつに、本校で以前から行っている、普段の授業をビデオに撮り、それを観ながら授業改善のアイデアを皆でディスカッションするということがある。決して批判しない、批判しなくなったら自分でやってみせる、子どもの事実からものを言う、そして1人1回は必ず発言するというのがルール。若手の教師は自信と授業を面白くするためのモチベーションが高まり、ベテランの先生のノウハウも、若手に伝えることができるようになる。こうした支援で、集団としての底上げが図られるようになるのだ。

「いま学校に行って感じるのは、学校が変調をきたしていること。若手の教師を育てる健全な文化が、少し揺らいできている。休み時間になっても先生が教室に引きこもって、教師間のコミュニケーションがうまくとれていないのです。そこで教師のハートに火をつけて、学校を機能不全の組織から、『フットワーク』と『ネットワーク』と『チームワーク』で、再生していく。その火付け役ですね」

「人は城」などというが、学校でも

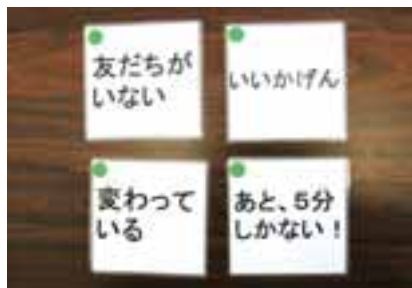


目盛りが白抜きになった視覚障害者向けの定規や、液体ゴムを塗ってすべりにくくした定規など。



会社でも、あらゆる組織は人が基本。安部先生の言う組織の再生、人の育て方のノウハウは、あらゆる組織に応用できるマネジメントでもある。

「発達障害の子というのは、通りいっぺんのつまらない授業だと、教室を出て行ってしまふ、厳しい生徒です。それゆえ教材を工夫し、話し方ひとつも工夫しなければならない。私たちが蓄積してきた特別支援教育のノウハウを通常教室の授業に導入すれば、かなりいろんなことが解決できると考えています」と安部先生は言う。



【リフレーミング手法】
マイナスの言葉(写真上)も違った視点からとらえると、心がホッと和むプラスの言葉(写真下)になる。



神田 基史 副校長

多忙でも明るく元気な安部先生

安部先生は、専任の特別支援教育コーディネーターとして10年間、地域の子どもと保護者、教師の相談・支援にあたっています。これまで巡回した園や小中学校の学級数は3000を超えるそうです。安部先生はたくさんの苦労や困難に直面しながらも、明るく、忍耐強く、相手の立場に立った支援を考える熱血教師です。全国の特別支援学校や教

育委員会からの研究会・講演・研修会等の派遣要請で引っ張りだこになっている状況ですが、「筑波大学」の看板を背負って、元気に各地を飛び回っています。ときどき、「こんな大きな魚が釣れちゃたあ〜!」と、釣果の写メールを見せてくれます。オンオフの切り替えも上手にできることがストレスをためないコツのようです。

女子バレーボール部

人間力育成にも力を入れる
全日本インカレ優勝6回の名門チーム

オリンピックの最終予選でのバレーボール部OG平井香菜子選手(2007年卒)の活躍は記憶に新しい。その時、全日本女子チームを支えていた4人のアシスタントコーチのうち3人は、本学の院生とOB。真鍋監督のデータバレーを支え、当然ながらオリンピックにも同行する。中垣内祐一氏(1990年卒)は全日本男子チームを支えており、いま、日本バレーボール界を筑波バレーが牽引しているといえるだろう。

そんな筑波バレーのお膝元である女子バレーボール部は、全日本インカレ優勝6回を誇り、毎年実業団選手を輩出する強豪チーム。この春のリーグ戦は、レギュラー選手2人が怪我で欠場するというアクシデントもあり、6位に終わったが、2人が復帰する12月の全日本インカレでは優勝を狙う。

精神的に大きく成長した
10日間のカナダ遠征

「狙う目標は、当然大学日本一ですが、筑波のバレー部は、ただ日本一になればいいというものではありません。指導者になる選手も多いですし、社会に出た時につながる経験を積んでもらいたいと考えています」という中西康己監督は、

学業との両立を重視し、普段の生活態度などについても目を光らせる。選手には、「練習も勉強も量より質。自分をごまかさず、毎日毎日、常に質を求め続けることで、自信もついていく」と伝えている。

このオフには、8年ぶりに、10日間のカナダ遠征も行った。「練習後、部員みんなで夜中までアルバイトをして費用を貯めたこと、現地でホームステイしたこと、カナダの学生と練習や試合をしたこと…全てが素晴らしい経験で、選手たちは精神的に大きく成長しました」と、選手の人間的成長を何より重視する監督は、カナダ遠征の成果に大満足の様子。

カナダでは、交流のある2つの大学を訪問。アルバータ大学の体育館の中には、バレーボールのコートが25面も並び、選手たちは、施設の充実ぶりと規模の大きさに圧倒されたという。試合については、「身長が190センチ近い選手がたくさんいて、迫力があった」「日本人にないプレーが勉強になった」と語る一方、「カナダチームは攻撃がメインで守備はあまり…。テクニックやつなぎの技術は自分たちの方が勝っていると思いました」と選手たち。カナダでの国際交流試合公

式戦3戦全てをストレート勝ちで飾った自信をのぞかせた。

スローガンは「質実剛健」

「今は、けがをしている選手もいて、スタメンも決まっていないし、ポジションも固定していない状況で、下級生も試合に入ったりすることがあります。声をかけて、みんながやりやすい環境づくりを心掛けています」とは、キャプテンとしても、セッターとしても、チームのまとめ役である正里菜選手(体育専門学群4年)。

監督によると、正選手を筆頭に、全選手がとても真面目なのが、同チームの特長だという。その真面目な選手たちは、今年のスローガンを「質実剛健」とし、私生活を含めて、さらに真面目に努力し続け、心身ともに強くなることを期す。

近年、フレンドリーな雰囲気のある運動部も増えているようだが、同部の上下関係はとて厳格だ。先輩と後輩の間にはピンと張り詰めた空気が漂う。

「先輩は厳しいけれど、いい時にはしっかり褒めてくれるし、悪い時





ははっきり言ってくれるのでありがたいです」と3年生の池田智美選手が言えば、「春の大会は不甲斐なかったので、尊敬される先輩でいられるように、一からやり直すつもりでがんばります」と4年生の副キャプテン彌永衣利選手。

後輩に厳しい前に自分に厳しい、そんな先輩を、後輩たちが少し怖がりながらも慕っている様子が伝わってきた。

ラグビー

- 第13回東日本大学セブンズ **優勝**

サッカー

- 第1回関東大学サッカートーナメント大会 **準優勝**

硬式テニス

- 関東学生テニストーナメント大会
【女子シングルス】**優勝** 菅村恵里香(同2年)
平成24年度全日本学生テニス選手権大会
予選8/15～17、本戦8/20～25 岐阜メモリアルセンター

体操部

- 東日本学生体操競技選手権大会 **【女子団体】3位**
第66回全日本学生体操競技選手権大会 8/22～25 仙台市体育館

弓道部

- 関東学生弓道選手権春季トーナメント大会
【男子団体】【女子団体】**準優勝**
第61回全日本学生弓道選手権大会 8/14～16
第43回全日本学生弓道遠的選手権大会 8/17

前身の師範学校から140年の歴史を有し、オリンピックの金メダリストを始め、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会。主な競技成績および今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【つくばスポーツ ONLINE】

<http://www.sports.tsukuba.ac.jp>

【筑波大学体育会】

<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

柔道部

- 柔道グランドスラム・バクー大会
【男子66^{kg}級】**優勝** 小寺将史(体専4年)
- 柔道グランドスラム・モスクワ大会
【男子73kg級】2位 西山雄希(同3年)
- 全日本選抜体重別選手権大会
【男子66^{kg}級】**準優勝** 森下純平(同4年)
【女子78^{kg}級】**優勝** 緒方亜香里(同4年)
- 平成24年関東学生柔道優勝大会 **【男子】優勝【女子】3位**
第30回オリンピック競技会 7/28～8/3(柔道) イギリス・ロンドン
【女子78^{kg}級】緒方亜香里(同4年)、【男子60^{kg}級】平岡拓晃(院2年、了徳学学園)が五輪代表として出場
平成24年関東学生柔道体重別選手権大会 9/1、2 埼玉武道館

女子ハンドボール

- 関東学生春季リーグ戦(女子1部) **優勝**
【最優秀選手賞】川俣ゆかり(同4年)
【優秀選手賞】網谷涼子(同3年)、阿倍千夏(同3年)、平川愛里(同4年)

男子バスケットボール

- 第61回関東大学男子バスケットボール選手権大会 **3位**
【最優秀選手賞】武藤修平(同3年)
- 第52回関東大学男子バスケットボール新人戦 **準優勝**
第88回関東大学バスケットボールリーグ戦 9/1～10/28 慶應日吉記念館他

男子バレーボール

- 春季関東大学バレーボールリーグ戦 **準優勝**
【敢闘選手賞】矢野諒介(同4年) 【ベストスコアラー賞】出末田敬(同3年)
【スパイク賞】李博(同4年) 【リベロ賞】白石啓丈(同4年)

水泳

- ジャパンオープン 2012
【男子400m自由形】3位 西山賢太郎(体専3年) 3:53.13
【女子100m背泳ぎ】3位 【女子50m背泳ぎ】4位 諸眞瑛美(同2年) 1:02.10(100m)
第59回全国国公立大学選手権 水泳競技大会 8/8、9 高知・くろしおアリーナ
第88回日本学生選手権 水泳競技大会 9/7、8 江東区・東京辰巳国際水泳場

陸上

- 第91回関東学生陸上競技対校選手権大会
【女子】**総合優勝 ※20年連続22回目** 【男子】総合3位
【男子3部】【女子2部】(大学院) **優勝**
【男子三段跳び】2位 米澤宏明(同2年) 15^m.57
【男子110^mH】**優勝** 大室秀樹(同4年) 13.88 **※関東インカレ3連覇**
【男子走り高跳び】**優勝** 戸邊直人(同3年) 2^m.19 **※関東インカレ3連覇**
【男子やり投げ】2位 中嶋善寛(同2年) 76^m.18
【男子十種競技】2位 谷浩二郎(同2年) 7064点
【女子100^m】2位 立山紀恵(同4年) 12.04
【女子800^m】**優勝** 真下まなみ(同3年) 2:04.57 **大会新記録**
【女子100^mH】2位 相馬絵里子(同3年) 13.58
【女子走り高跳び】2位 金井瞳(同3年) 1^m.73
【女子走り幅跳び】2位 中野瞳(同4年) 6^m.18
【女子三段跳び】**優勝** 前田和香(同4年) 12^m.97
【女子砲丸投げ】2位 知念莉子(同1年) 14^m.12
【女子円盤投げ】**優勝** 日下望美(同4年) 51^m.13
【女子ハンマー投げ】**優勝** 大崎かな(同2年) 53^m.91 **大会新記録**
【女子7種競技】2位 春田亜沙美(同3年) 4969点
天皇賜杯 第81回日本学生陸上競技対校選手権大会 9/9～12 東京・国立競技場他

つ	く	ば		
鳥	人	間	の	会



1年かけて設計・製作した人力飛行機で、 1度きりの大舞台に挑む!

「つくば鳥人間の会」(長谷川泰久顧問)は、1986年に、読売TV系列のテレビ番組「鳥人間コンテスト」に出場するために結成されたサークル。本年度も、7月28～29日に開催される同コンテストで、折り返しを含んだ1kmの飛行タイムを競う「人力プロペラ機タイムトライアル部門」に出場が決定している。

大会では、高さ10メートルのプラットフォームから飛び立つ。プラットフォームに立てるのは2年生から。

「去年初めてプラットフォームに上がって、その景色の素晴らしさに感動しました。機体が飛び立つと、一瞬視界から消えるのです。落ちてしまったかと思ひやっとしたんですけど、そこから浮き上がって来た時の感動が忘れられません」と、荻野季里子会長(工

学システム学類3年)。

同会は、安定して上位入賞する実力派として知られ、本年度で22回目の本戦出場となる。過去3大会は、準優勝、3位、3位という成績。「今年こそは優勝」と、最終調整に取り組んでいる。

知恵やアイデアを絞り、 毎年新たに機体を設計・製作

現在のメンバーは、男性25人、女性7人。物作りが好きな人、飛行機が好きな人、テレビに映りたい人、サークルの楽しそうな雰囲気が気に入った人…入部の動機はさまざま。

毎年、大会が終了すると代替わりして2年生が執行代となり、その学年から次の大会のパイロットを選んで、設計・

製作に取りかかる。

「前年度の設計を参考に、自分たちの知恵やアイデアを絞って、機体をコツコツと作り上げていきます。自分は、身長が180センチあって、小柄な人ほど有利なパイロットにははるばる大きいので、大幅な改良を余儀なくされました」と本年度のパイロット、福留光紀さん(工学システム学類3年)。

機体の製作作業を行うのは、図書



作業風景

このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、発表会、大会、ボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>



館下の通路。暗くて、雨漏りし、冬場は寒風が吹きつける劣悪な環境で奮闘している。強豪チームには、翼も全て収容できる屋内の倉庫で製作しているところもあり、他大学からの見学者が来ると、一様に唖然とするという。

パイロットは肉体改造し、イメージトレーニングで本番の旋回に臨む

1年かけて作り上げた機体は、大会でフライトし、着水すると壊れてしまう。その機体に乗ることができるのは、ただ1人、パイロットのみ。皆の想いを寄せ書きしたTシャツを着て、大空にはばたく。

大役だけに、パイロットの試練は大きく、製作に携わりつつ、孤独に、トレーニ

ングと減量に励まなければならない。ダイエットし、ウエイトトレーニングやロードバイクで体を鍛え、パワーをつけながら、脂肪をそぎ落とす。現在、福留さんの体脂肪は7~8%で、「大会までに5%にするのが目標」と、機体同様、最終調整中だ。

当然ながら、操縦技術も身につけなければならない。ところが、直線飛行はテストフライトができるものの、一番難しい折り返し地点での旋回は、練習することが不可能で、ぶっつけ本番だという。

歴代のパイロットの話を聞きながら、あらゆる局面を想定して戦略を練り、イメージトレーニングだけで、旋回に臨む。「飛ぶ直前まで、今日は右回りでいこうか、左回りでいこうか、高度はどれくらい必要か、ラダー(方向舵)はどれくらいまで操作するかなどを設計士と綿密に考

えます。戦略を立てるというのが、タイムトライアルの重要なキーポイントなのです」と福留さん。

“折り返し地点の旋回”に着目して、ぜひ、同会の活躍をテレビ放送でご覧下さい。「鳥人間コンテスト」の放送日が決定次第、本学の公式facebook(<http://www.facebook.com/univ.tsukuba.ja>)でお知らせします。



つくば鳥人間の会

■ 第35回鳥人間コンテスト選手権大会
7/28、29(場所/滋賀県彦根市松原水泳場 琵琶湖東岸)

舞踏研究会

■ 国公立大学競技ダンス選手権大会
9/9(場所/東京大学駒場キャンパス 第2体育館)

歌留多部

■ 全国職域学生歌留多大会
8/26(場所/江戸川区スポーツセンター)

THK筑波放送協会(記録)

■ NHKラジオ第一放送『ラジオをプロデュース ~これがイケラジ!~』
本選3位(作品名「聴いてみよう 世界の音楽」)

ロンドン五輪に筑波大学現役生・卒業生がぞくぞく決定！

7月25日から8月12日まで開催されるロンドン五輪に本学関係者が多数、選出されました。日本を代表して活躍する選手にぜひ、ご声援をお願いします。

【柔道】

- 女子78kg級 緒方亜香里選手
(体育専門学群4年)
- 男子60kg級 平岡拓晃選手
(人間総合科学研究科体育学専攻2年:了徳寺学園職員)
- 女子48kg級 福見友子選手
(人間総合科学研究科体育学専攻修了:了徳寺学園職員)
- 女子78kg超級 杉本美香選手
(体育専門学群卒業:コマツ)



女子78kg級 緒方亜香里選手



女子48kg級 福見友子選手

【バドミントン混合ダブルス】

- 池田信太郎選手
(体育専門学群卒業:日本ユニシス(株))

【女子サッカー】

- 安藤梢
(人間総合科学研究科体育学専攻2年:FCR2001デュイスブルク)
- 熊谷紗希
(体育専門学群3年:1.FFCフランクフルト)



熊谷紗希選手

※女子サッカーはロンドン五輪日本代表候補(6月20日現在)

写真:
APアフロ



T O P

附属病院DMAT (災害派遣医療チーム)をつくば市北条地区へ派遣

5月6日午後0時45分頃に発生した、F2と認定された竜巻の直撃により、特に大きな被害を受けたつくば市北条地区へ、茨城県知事からの派遣要請に基づき、筑波大学附属病院DMATチームから6人(安田貢救急・集中治療部副部長、高橋伸二病院教授、小笹雄司副看護師長、泥谷朋子副看護師長、澤田幸子副看護師長、赤星博和臨床工学技士)を派遣しました。

つくば市北条地区とその周辺では800棟以上が被害にあったため、「市民ホールつくばね」を災害拠点施設に、附属病院DMATチームが医療統括を務め、他のDMATチームおよび消防隊員等と協力して負傷者のトリアージ、手当等を行いました。

※DMATとは

「災害急性期に活動できる機動性を持った専門的トレーニングを受けた医療チーム」と定義されており、Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって、DMATと呼ばれています。



現地から帰院したDMATチーム



救助に集まった消防隊員等



第36回春季スポーツ・デー開催

筑波キャンパスにおいて、第36回春季スポーツ・デーが、5月19、20日の2日間、開催されました。

本学のスポーツ・デーは、学生組織スポーツ・デー学生委員会が企画から準備・運営までを行い、本学の学生・教職員が集うスポーツの大会です。毎年延べ1万人以上の参加者が集まり、熱戦を繰り広げる本学特有の大学行事です。

今年は、2日間とも晴天に恵まれ、清々しい微風を感じながら、スポーツを楽しみました。

開会式において、平成23年度スポーツ・デー功労者の表彰式を併せて行い、9人の学生が、昨年度まで3年間の長きにわたり、スポーツ・デーの企画・運営に尽力し多大な功績を挙げたことにより、表彰されました。



ICS

国際戦略総合特区に関する臨床研究シンポジウムを開催

国際戦略総合特区に関する臨床研究シンポジウム「Imagine the Future Hospital!～ともに創る最先端研究～」が、6月6日、本学医学群臨床講義室Aにて開催されました。

当日は、山田信博学長、足立信也参議院議員、大泉ひろこ衆議院議員の挨拶の後、特区におけるライフイノベーションとして、櫻井英幸教授(人間総合科学

研究科放射線腫瘍学)の「次世代がん治療に関する研究」、山海嘉之教授(システム情報系)の「ロボットスーツHALによる国際戦略先進医療」、産業技術総合研究所の比留川博久知能システム研究部門長の「臨床業務支援ロボットに関する研究」等の講演があり、附属病院内外の教職員、一般市民の方、175人の来場がありました。



櫻井英幸放射線腫瘍科教授



山海嘉之システム情報系教授



比留川博久知能システム研究部門長

運動部のユニフォームカラーを統一

本学では、これまで異なっていた運動部のユニフォームカラーを明るい青「FUTURE BLUE」を基調としたユニフォームに変更するとともに、校章、エンブレムを統一しました。

ユニフォームカラー等の統一は、これまで異なるカラーのユニフォームを使用していた運動部に一体感を持たせるのみならず、筑波大学として一体となり、「チームツクバ」として闘うことを象徴しています。



「FUTURE BLUE」のユニフォームを身にまとった本学運動部に熱いご声援をお願いします。



記念撮影の様子。前列左から東副学長、山田学長、阿江副学長、清水副学長

駐日韓国大使による特別講演会を開催

申珥秀（シン・カクスウ）駐日本国大韓民国特命全権大使が4月12日、山田信博学長を表敬訪問するとともに、大

使による特別講演会「21世紀の韓日関係と若者の役割—グローバル人材の育成に向けて—」を大学会館国際会議室において開催いたしました。

講演会には、本学の学生、教職員および一般の方およそ100人が参加し、日韓、そして国際社会で活躍してきた申大使の講演に熱心に耳を傾けていました。



申大使の講演に聞き入る参加者



講演をされる申大使



本学の社会貢献プロジェクトの1つに、小林正美准教授(数理物質系)の率いる「面白不思議科学実験工作隊」があります。

小林准教授は、16年前から、県内の小・中・高校で、出前実験講座を実施しています。依頼に応じて、単身もしくは、学生(TA)を数名連れて出向っており、昨年は40回ほど開催しました。現在、対象の9割は、小学生です。小学校は専門教科制でないため、理科の実験に不安を抱えている先生も多く、児童に理科の面白さを伝えるとともに、先生方には実験のコツも伝授しています。

「近年、子どもたちの理科離れが危惧されていますが、子どもたちは本来、理科が大好きなんだと思います。昔と今の違いは遊びですね。今の子どもたちは、ゲーム機で遊ぶ時間がどんどん多くなってきています。私の子どもの頃は、駄菓子屋さんをはしごして、電池ボックスやモーターで工作したり、簡単な仕掛けで動く安いおもちゃで遊んで



屋台のように並べた昔のおもちゃ

いました。子どもたちに理科に興味を持ってもらうきっかけとして、昔の遊びを取り入れようと考えました」と小林准教授。

出前先の教室には、屋台のように昔のおもちゃをずらりと並べます。ろうそくに火をつけることで動くポンポン船や、風船にプロペラをつけて飛ばすおもちゃ、平らに折り畳まれた状態のものを落下させると、ゴムの力で立体的に立ち上がる人形…。ポンポン船には、熱機関の原理が使われているなど、どれも素晴らしい“科学のタネ”だと言います。

昔のおもちゃを含め、実験・工作メニューのストックは100種類以上。対象者の人数や年齢構成、季節、予算に応じて、毎回20種類くらいのメニューを用意して依頼先に向かいます。心に響くメニューは人それぞれなので、たくさんのメニューを用意して、どれか一つでも関心を持ってくれたらと祈っているそうです。

こうした実験にあたって何よりも大切に行っているのは「驚き」です。子どもたち



高校生も夢中で実験



小林正美 准教授



人気が高い食べ物の実験

だけでなく、先生や保護者の方々までも驚かせるような実験を用意し、実験内容は当日まで誰にも伝えません。

さらに、実験・工作の多くは、ペットボトルや空き缶など、ゴミ箱へいくような材料を使い、家に帰っても、子どもたちだけでできるように工夫しています。

「面白理科先生」として小林准教授は広く地域に知れ渡っており、4月に本学で開催したキッズ・ユニバーシティの「面白不思議科学実験工作隊」コーナーには、募集人数の2倍もの応募がありました。

こうした活動は、言わば、科学の芽を“発芽”させるもの。「えっと思うこと、面白いと思うこと…感性が一番大事なので、どうしてそうなるかの理論は言いません。理論を言ってしまうと、わかった気になってしまうので、原理が知りたい人には図書館で調べてごらんと言っています。そして、それでもわからなかったら、筑波大学に入学したら、喜んで教えてあげると、パンフレットを配りながら伝えています。子どもたちは、入る気満々になっていますよ」と笑う小林准教授。

子どもたちが、芽吹いた科学の芽をすくすくと伸ばし、本学で、世界で、花開かせてくれることを期待します。

平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞

安野嘉晃講師(数理物質系)は、「前眼部専用3次元トモグラフィー装置の開発」の業績が評価され、平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部

門)を受賞しました。

この賞は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技

術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的としたものです。



表彰状を持つ、安野嘉晃講師



角膜モード
隅角モード



装置で撮影した前眼部の3次元断層画像



Yasuno, Opt. Express 13, 10652- (2005).

第8回(平成23年度)日本学術振興会賞を受賞

高谷直樹教授(生命環境系)は、「糸状菌の多様な電子伝達反応系の発見と機構解明」の研究業績により、第8回(平成23年度)日本学術振興会賞を受賞しました。

この賞は、優れた研究を進めている若手研究者を見いだし、早い段階から顕彰してその研究意欲を高め、独創的、先駆的な研究を支援することにより、我が国の学

術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させることを目的に平成16年度に日本学術振興会が創設したものです。



シャーレの上に生育させた糸状菌(カビ)



顕微鏡による菌糸の観察



学長表彰式での高谷直樹教授

●主な受賞等一覧

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
IMRET 12 - The International Conferences on Microreaction Technology, Best Poster Award	Marcos Antonio das Neves助教(生命環境系)	_____
日本化学会賞	関口章教授(数理物質系)	_____
JAFEE論文賞(実証分析部門)	山田雄二准教授(ビジネスサイエンス系)	_____
財団法人テルモ科学技術振興財団平成23年度研究助成	盛武敬講師(医学医療系)	_____
第13回「貴金属に関わる研究助成金」MMS賞	近藤剛弘講師(数理物質系)	_____
平成23年度日本家禽学会賞	田島淳史教授(生命環境系)	_____
2012 International Conference on e-Commerce, e-Administration, e-Society, e-Education and e-Technology, Distinguished Paper Award	住田潮教授(システム情報系) 小谷方人(システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 博士前期修了)	_____
アメリカ白内障屈折矯正手術学会ポスター部門第2位	大鹿哲郎教授(医学医療系) 加治優一准教授(医学医療系)	_____
第44回市村学術賞貢献賞	青柳秀紀教授(生命環境系)	_____
平成24年度日本不動産学会賞(論文賞)	谷口守教授(システム情報系) 落合淳太(システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 博士前期2年)	_____
平成24年度日本写真測量学会奨励賞	楊帆非常勤研究員(生命環境系)	_____
日本太陽エネルギー学会論文賞	岡島敬一准教授(システム情報系)	_____
ABRAHAM WALD PRIZE in Sequential Analysis 2012	青嶋誠教授(数理物質系) 矢田和善助教(数理物質系)	_____
日本原子力学会熱流動部会優秀講演賞	黒田泰平(システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期2年)	阿部豊教授(システム情報系) 金子暁子講師()
日本化学会第92春季年会学生講演賞	朝比奈健太(生命環境科学研究所 持続環境学専攻 博士後期3年)	野本信也教授(数理物質系)
The INC8 Japan Nano Day Best Poster Award	赤須雄太(数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士前期1年)	中村潤児教授(数理物質系)
第8回国際ナノテクノロジー会議(INC8) Best Poster 賞	伊藤啓太(数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻 博士後期2年)	末益崇教授(数理物質系) 都甲薫助教()
RE2011優秀ポスター賞	長谷川渉(システム情報工学研究科 リスク工学専攻 博士前期2年) 関口大介(" " " 1年)	岡島敬一准教授(システム情報系)
平成24年度繊維学会年次大会若手優秀ポスター賞	井関友和(数理物質科学研究科 物性・分子工学専攻 博士前期1年)	後藤博正准教授(数理物質系)

※所属、職名、学年は受賞年時

大手メーカーから独立して、機能とデザイン性を兼ね備えた働く女性のためのバックやグッズを制作・販売している中川千恵美さん。今回は、1987年芸術専門学群卒のOG、中川さんにお話を伺いました。

中川千恵美さん

有限会社ワークストリーム（代表取締役）

プロフィール

- 1965年 大阪府出身
- 1987年 筑波大学芸術専門学群デザイン専攻生産デザインコース卒業
- 1987年 旭硝子株式会社 デザイナーとして本社商品開発担当
- 1997年 旭硝子株式会社 退職
- 1997年6月 ㈲ワークストリーム代表取締役社長就任



㈲ワークストリーム <http://www.workstream.co.jp>

— 芸術専門学群デザイン専攻生産デザインコース（現・プロダクトデザイン領域）のご卒業ですが、高校生の頃から、今の様な仕事をしようと考えていらしたのですか？

漠然とですが、小さい頃から物作りや絵を描くことが好きで、将来は何かのデザイナーになって、自由に仕事がしたいと考えていました。筑波大には、推薦入学で入り、2年次から生産デザインを学びました。グラフィックも、物作りも、どちらもやりたいと迷いましたが、グラフィックは、習わなくても、自分でできそうな気がして。物のデザインは、どうしたらいいかわからなかったので、図面の書き方とか、いろいろ教えてもらいたいと考えて選びました。筑波大は、カリキュラムがフレキシブルで、とてもありがたかったですね。



mini binder 5hall with cardcase

— 生産デザインコースでの勉強はいかがでしたか？

とても面白くて、選んでよかったと思っています。女性は私だけでしたし、きついこともありましたけどね。今でも忘れられないのは、3年生の時の、コーヒーメーカーという制作課題。マシンとしての機能と造形のイメージをうまくまとめられなくて、発表の時に先生にひどく怒られ、壇上で泣いてしまいました。その後、その先生は外国に半年くらい行かれたのですが、その間、その課題にずっと取り組んできて、自分なりに仕上げたんですよ。そうしたら、帰国した先生に褒めていただいて、「デザインってこういうことなんだ」と実感した記憶があります。

— とても熱心で、真面目な学生だったのですね。

デザインの課題に対しては、特に真面目に取り組みました。周りもそうでしたよ。「少しでも格好いいものを作ってみんな

の前でいい顔したい」というのがあるから、競争なんです。芸術学系棟で、みんな朝までがんばっていました。

— 卒業後は旭硝子株式会社に入社して、10年後に独立されました。

デザイナーとしてフリーで仕事をするのが目標だったので、「5年後くらいには独立できるように、会社でいろいろなことを身につけよう」という意識で働いていました。仕事以外の時間にも、いろいろな作品を制作して、デザインコンペに応募したりしていましたね。学生時代の仲間と共同で制作して、国際コンペに入賞したこともあります。数々のコンペで入選して、デザインの力に自信が持てるようになっていきました。でも、27歳の時にはまだ「仕事とは何か」ということが全然わからなくて。さらに5年ほど会社で仕事をしているうちに、ようやく、自分なりの答えを見つけることができたので、独立する決意ができました。

— 見つけた答えとは？

「自発的にやる」ということです。それまで、「デザイン事務所をやって、仕事が来なかったらどうしよう」と心配だったのですが、誰かに仕事をもらえるまでじっと待っているから、来なかったら困るということになるわけですね。「仕事が来なかったら、自分で企画し、その企画に合うところにプレゼンして、仕事として成立させればいい」ということがわかって、独立する決心ができました。実際に始めた時も、まずバックを作って、「こんな風に考えて作りましたが、いかがですか？」と売り込みをして回りましたし、今でも、その考えで仕事をしています。

— 他に、独立に備えて準備したことはありますか？

独立する前に1年間、会社経営を勉強するために、会社勤めをしながら、ビジネススクールに通いました。いい経験だったと思いますが、経営というより、そこで出会った人脈が役に立った感じですね。

— 独立してデザインするものにバックを選んだのはどうしてですか？

何かオリジナルアイテムを作って売り込もうと考えた時に、会社の総合職の女性たちが、「A4の書類の入る、女性用のかわいいカバンがない」とよく言っていたことを思い出したんです。それに、当時はまだ、女性が働くための環境が整っていませんでしたから、いろいろ大変だったんですよ。そうした女性たち

を、デザイナーとして応援する意味でも、女性用のビジネスバックが作りたいなど考えました。

— 独立した後はどうでしたか？

最初の1~2年は本当に大変でした。記念すべき、第1号のヒット作となったのは、「ノートパソコンが入るセカンドバック付きワーキングバック」です。これは、バックを売り込んでいる時に、モバイルライフを研究する女性たちのグループと出会って、その方たちと一緒に、ネットを活用して開発したんです。ネットでアンケートをしたり、スケッチの画像をアップして投票してもらったり…その頃にしては、他でやっていない、先進的な取り組みだったんですよ。半年かけて完成させたワーキングバックを100個作ったら、販売開始からわずか1日で完売。そのことが、ネット上で話題になりまして、どんどん売れるようになりました。

— 1日で完売とは、すごいですね！

そして、そのバックを、女性デザイナーの会が主催する展覧会で展示していたら、雑誌「クロワッサン」の編集者の目に留まって。雑誌で紹介していただくと同時に、全国に30店ほどあるクロワッサンの店で販売していただけることになりました。その年、このバックは、ネットでも500個売れましたし、「クロワッサンの店」のファッション部門で売上1位になったんですよ。

— 現在では、伊勢丹、東急百貨店、三越、ユニテッドアローズ、リクルート、カタログハウスなど、そうそうたるところと取引されています。

卸し先は選んでいます。自分の中で、制覇したい取引先という目標がありまして、少しずつ増やしてきました。自分が卸したいと考えるようなところは、どん



超撥水パッカブル2wayバック「itel-イテル」

な業者さんからも大人気なわけですよ。すごく競争が激しいから、いいデザインのもの、他にないものを持っていかないと、新しく取り扱ってくれないんです。でも、それをやるのがデザイナーの仕事だと思っていますから。

— 他に、デザイナーとして、こだわっていることはありますか？

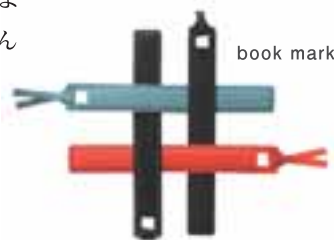
同じことをずっと繰り返していると、慣れてきちゃってだめなんです。だから、毎年必ず、やったことがない分野に取り組むようにしています。例えば、同じノートカバーを作るのでも、素材を変えただけで、工場も違うし、材料の調達も、コストの考え方も…何もかも違ってきて、とても大変なんです。でも、あえて取り組んで、新しいお客さんや、新しい工場を開拓するようにしています。

— 最後に、筑波大学の学生に一言お願いします。

専門学校で非常勤講師をやっている、そこの学生にもよく話すんですが、人との出会いが運命も変えていくと思うので、出会った人とか、隣にいる友達とかを大事にして欲しいですね。後は、本をたくさん読んで、「自分で考えて、自分で行動する人」になってもらいたいなと思います。



ryuck



book mark



附属視覚特別支援学校
 高等部教諭
柴田健一さん



15年前の6月。群馬の尾瀬ヶ原と鼻曲山に出かけた。野鳥の繁殖の季節で、カラ・ムシクイ・ヒタキ・ゲラの類をはじめとして20種類余りの野鳥のサエズリが、まるでシャワーのごとくに山野に降り注いでいた。その後毎年のように同時期に当地を訪れたが、サエズリは年々減り続け今や、1羽1羽の声がポツポツと降る雨粒の音ほどにしか聞こえてこなくなった。何たる激減だろうか。燕の渡りも少ないという。南方の森林伐採は深刻だ。一方今年は、佐渡で36年振りのトキの自然界下での雛が、豊岡で放鳥コウノトリのペアから2世の雛が誕生した。嬉しいことである。自然の恵みは大切にしたいものである。

今回は、附属視覚特別支援学校 中学部教諭の山口崇さんです。「心温かく、丁寧で実直な人柄の先生です。自立活動という教科を担当されていると共に、多面に渡る分野で活躍されています」

数理工学エリア支援室
三上ゆきさん



ピアノの音色が好きでよく聴いていたのですが、ある時、どうしても自分で弾いてみたくなり、電子ピアノを購入。タイミング良くピアノを教えてくれる先生もみつきり、仕事終わりに先輩方と一緒にピアノを習い始めました。小さい頃、エレクトーンを習っていたので楽譜は読めましたが、鍵盤のタッチの違いに大苦戦。練習を重ねて何曲か弾けるようになったとき、先輩の結婚式で演奏することに・・・とても緊張しましたが良い思い出となっています。今は、家族で旅行へ行ったりするのが楽しみです。少し時間に余裕ができれば、また始められたいなと思っています。

今回は、体育芸術エリア支援室の倉持雅子さんです。「大学院課の時からお世話になっている大先輩です。いつも楽しい時間を共有させていただいています」

リ シ ー エ ッ セ イ >>>

附属桐が丘特別支援学校副校長
西垣昌欣さん



先日、娘が小学校から「PTA親睦ソフトボール大会」のお知らせを持って帰ってきた。最近、意識的に体を動かさないとイケナイと感じていた私は、かつて野球少年だった頃の記憶を甦らせ15年ぶりのソフトボール大会へ。しかし、結果はサンザン。打つ方はなんとかなったが、問題は守備。打球を追うイメージに足がついてこないという悲しい現実。唯一の救いは、様子を覗きに来た娘の目の前で打ったレフトオーバーの二塁打。親父の面目をなんとか保ったつもりで帰宅したが、妻が耳元でこう囁いた。「走る足がもつれそうだったわよ!」「……。」しばらく野球中継は静かに観ていた方がよさそうでR。

今回は、附属聴覚特別支援学校 副校長の伊藤僚幸さんです。「4月から共に副校長となり、年齢も同じ。伊藤先生の実存に、気持ちがずいぶん救われています」

病院総務部総務課
岡島隆治さん



自分の今の楽しみは何かと考えてみました。昔から今と同じ体型でしたが、休日や昼休みには野球、テニス、バトミントン、重い重い身体をパワーで動かし、スポーツとその後のお酒を楽しんでいました。悲しいことに、今ではお酒だけが楽しみになっています。地元の酒屋やネットで購入(定価です)した酒を近所のスーパーで買った惣菜を肴に飲んでます。写真は自慢の酒のストックです。ストレスを酒で克服して出勤しています。あまり無いようにしますが、酒臭かったら、昨日のストレスは大きかったのだと、優しい気持ちで許してください。自分も反省しますので。

今回は、附属病院看護部の三ヶ田愛子さんです。「看護師採用等で多忙でも、いつも穏やかな方なので心が和みます」

特別支援教育研究センター教諭
間々田和彦さん

先日、特別支援教育教員養成支援プロジェクトでボリビアへ行ってきました。

趣味が「知ること」の私にとって、初めての体験ばかりに感動の連続でした。一番の感動は知的障害の青年との出会い。私が日本人だと分かると、以前覚えた日本の歌を歌ってくれました。仕事の合間に見たアンデスの氷河、蒼い空とそれを映し出したティティカカ湖の色も感動でした。そして地学教員として一度は体験したかったラパス(富士山山頂並!!)の空気の薄さ。いつもの5割増しの心拍数、なかなか離陸しない飛行機、ホテルに用意された酸素ボンベ等で空気の薄さを実感しました。37時間のフライトと13時間の時差は少々厳しいですが試してみる価値はあるかも？



歌を歌ってくれた青年とのツーショット!

今回は、生命環境系教授の江前敏晴さんです。
「生命環境系教授の江前敏晴さんは筑波大の新人。実験教室関連のNPOでのおつきあいです。ご専門は紙の研究です！」

生命環境科学等技術室
小崎四郎さん

テニスを始めてから二十数年、何がきっかけで始めたのかは忘れてしまいましたが、当時、世界で活躍していたマッケンローを見ればイメージだ



けを膨らませ、これをまねすれば強くなれるなどと誤解して、たいした進歩が見られず今に至っています。一緒に打ってもらっている人達に迷惑をかけながらも楽しんでテニスをしています。こんな感じでテニスに夢中になっているのですが、他にも学内には春になれば梅の香り、桜の花、秋になれば紅葉と見所のあるところがたくさんあり四季を満喫するウォーキングにもはまっています。皆さんもスポーツを楽しんでみてはいかがでしょうか？

今回は、生命環境科学等技術室の大谷理さんです。
「京都からつくばに来て数年なのでつくばに来たときの楽しいエピソードとかを書いてもらえそうなので紹介しました」

T S U K U B A C O M M U N I C A T I O N

医学医療系
講師

小林麻己人さん

小中高とサッカー一筋。で、10年ぶりに再開。地域父兄チームに入れてもらい、シニアリーグを楽しんでいます。走れない・足がでない・飛ばないの三重苦。さらに、驚くほど巧い最近の若手にいつもタジタジ。でも、たまに上手いって幸せ気分になります。筑波大教職員が相手チームにもいて、普段聞けない(言えない)罵声も飛び交うのもつくばコミュニケーション(笑)。さて、蹴球部・女子サッカー部には、地域少年少女チームへのコーチ派遣という30年来の素晴らしい伝統があります。息子・娘もお世話になっています。最近、コーチ希望者が減少中という心配な噂。ぜひ続けて欲しいと思います。



写真右側。セキショウにて。

今回は、数理物質系教授の長崎幸夫さんです。
「サイエンスイラストレーション演習が出会い。エネルギーでアグレッシブ、かつニコニコ。尊敬です」

体育芸術エリア支援室
細沼祐介さん

大学時代の友人達と今も定期的に集まり、在学中と変わらない感覚で、童心と言えば聞こえのいい他愛無い遊びを毎度のように続けている。画像の阿呆を見れば一目瞭然ながら、恥ずかしげもなく旅行先(@熊野那智大社)で意味のわからないポーズをキメてみたりするのだが、やっている途中で我に返らないあたり、かなり末期症状なのかもしれない。本来画像の両隣にも阿呆が二人集結していたはずが、肖像権がどうとかいうありもしない羞恥心を盾に掲載を拒否されたため、一人遊びのようで悲哀漂うご覧の有様になった。かの阿呆達は十年後もきっと、変わらずこんなことをやっているような気がする。



今回は、数理物質エリア支援室の高田一平さんです。
「同期で最初の配属部署も同じだった戦友です。独特の感性には舌を巻くばかりの料理系男子！」

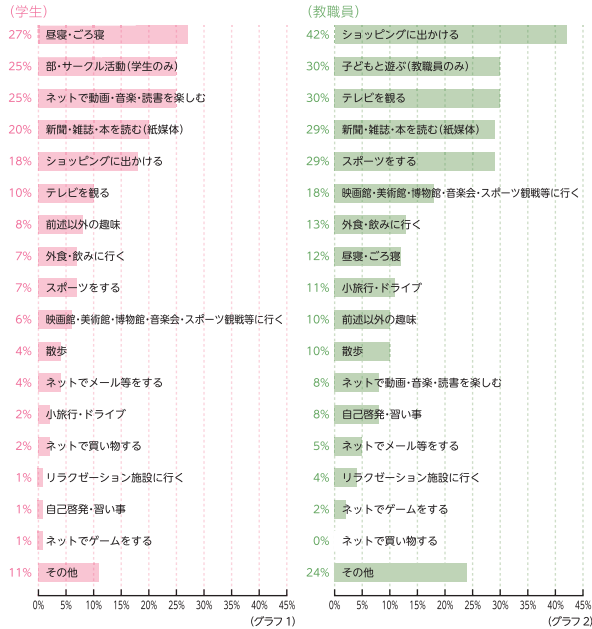
※所属、職名は平成24年6月現在

本学教職員と学生にアンケート調査を実施し、本学関係者の興味や関心のあることを紹介する「つくばNOW」。
アンケート調査をお願いした際には、ぜひご協力をお願いいたします！

第4回 休日の 過ごし方

休日は、心身ともにリフレッシュして、次の一週間の活力を蓄える大切な日。「他の人は、休日をどのように過ごしているのだろう?」と、気になる人も多いのではないのでしょうか。そこで、今回は、休日の過ごし方についてアンケート調査を実施しました。みなさんの意見を参考にして、いつもとちょっと違う休日を過ごしてみませんか?

Q休日の自由時間に、多く時間を使っているのは何ですか?



学生は、昼寝・ごろ寝で、ゆったりと体を休める!

Q休日は、家と外、どちらで過ごすことが多いですか? という問いに対して、学生は、家派53%、外派45%(どちらもいえない2%)と、ほぼ半々に分かれました。
学生が、休日の自由時間に、多くの時間を使っているのは「昼寝・ごろ寝」(グラフ1)。
Q休日に、一番楽しみにしているものはなんですか?という質問に対して多かった回答の1位も「昼寝・ごろ寝」で、学生たちが平日ハードに活動し、休日は、文字通り、体を休ませるために使っている様子がうかがえます。
また、Q休日は、誰と過ごすことが多いですか?という質問に対しては、1人で過ごす人と、友達や恋人と過ごす人と半々くらいという結果になりました。
休日に楽しんでいるスポーツは、サイクリング、テニス、バスケットボール、野球、ジョギング・ランニング、水泳。Q「その他の趣味」の具体的な内容は?という問いには、絵を描く、写真、パソコンプログラミング、小説を書く、ギター練習などといった回答が寄せられました。

教職員は、ショッピングしたり、子どもと遊んだり

Q休日は、家と外、どちらで過ごすことが多いですか? という問いに対して、教職員は、家派43%、外派50%(どちらもいえない7%)と、学生同様、ほぼ半々に分かれました。
休日の自由時間に、多くの時間を使っているのは「ショッピングに出かける」「子どもと遊ぶ」「テレビを観る」「新聞・雑誌・本を読む(紙媒体)」「スポーツをする」(グラフ2)で、Q休日に、一番楽しみにしているものはなんですか?という質問に対して多かった回答は、「昼寝・ごろ寝」「子どもと遊ぶ」「ショッピング」。既婚者が多い教職員は、休日を家族と過ごす人が65%と多く、「昼寝・ごろ寝」を何よりも楽しみにしているものの、家族に連れられて、ショッピングに出かけたり、子どもと遊んだりしている、という様子がうかがえました。
ショッピングの行き先として、西武・キュートとイースが一番多い回答というのは、学生と同じでしたが、土浦イオンという回答も多く、他に、東京、銀座、北千住、佐野・阿見のアウトレット、京都市中の老舗といった回答もあって、教職員の方が、学生よりショッピングエリアが広いようでした。

また、教職員の3割近くの方が休日にスポーツを楽しんでいて、種目としては、サッカー、野球、ゴルフ、ランニング・ジョギングが多く、他に、バトミントン、卓球、サイクリング、ボーリング、水泳、テニスがあげられました。

Q「その他の趣味」の具体的な内容は?という問いには、海釣り(4人)、園芸(2人)、演劇鑑賞、コーラス、聞香、能鑑賞、山歩きといった回答が寄せられました。

おすすめの休日の過ごし方

- | (学生) | (教職員) |
|---|---|
| 朝早く起きる | 朝早く起きる/朝早く起きて散歩する |
| 論文を読む/勉強をする | 自宅でのんびり過ごす |
| 睡眠不足を解消する/ゆっくり過ごす | イースつくば内のカスミストアで火曜日買い物をして、映画を1,000円で見られる券を手に入れ、週末にイース内のシネコンで映画鑑賞 |
| 自転車であらつ | 朝一番の映画鑑賞(空いている) |
| 平日なかなかできていない掃除や洗濯、料理といった家事を楽しむ/手間のかかる料理をする | ネットで好きな映画を見る |
| 1泊2日の旅行に行く | 自転車で大東通り、西大通り、野田線を通っての1周コース(ゆっくりで2時間30分位) |
| 筑波山で星鑑賞/大洗に行く | 遠隔地への日帰り/1泊2日の旅行/関東近県(栃木、群馬など)の温泉に日帰りで行く |
| 筑波実験植物園にお弁当を持っていき、散歩をする | 公園めぐり(子供用の遊具が場所によって違うので飽きない)/洞峰公園、土浦の水郷公園、石岡の風土記の丘でピクニック |
| スポーツをする | 宝篋山ハイキングコース/筑波山散歩 |
| 映画館で好きな映画を観る | 常磐高速沿いの茨城県の北の方や福島県南部にドライブ(観光客も少ないのんびり家族と過ごせる) |
| つくば市立図書館で読書してから、キュート・西武でウィンドウ・ショッピングする | ひたちなか市の海浜公園→那珂湊おさかな市場→日立市の湯楽の里など |
| 積極的に東京に出る | 土浦市上坂田の「坂田園芸グリーンゲート」で花を見つ、子供たちをりんりんロードで遊ばせる |
| 着物を着て、美術館など東京に遊びに行く。他大のお茶会に行く | 石岡のミッドクリークフィッシングエリア(管理釣り場)で魚を釣ってその場で焼いて食べ、「ゆりの郷」温泉に入って帰る |
| 神社めぐり/つくばの古い建物めぐり | イベント情報を入手して出かける(意外な発見がある) |
| twitterをパソコン画面でただ眺める(1人でいる快適さを保つつ、寂しさを感じない) | 土いじり(自然の力で癒される)/肉体を酷使した農作業後にビールを飲む(至福のひと時) |
| | 友人とスポーツをした後に、ビールを飲む |
| | 大学構内のループを走る/マラソン大会に出場する。大会以外の日、大会を目標にランニングする |
| | 週末も研究室で仕事をする事が多いので、研究室を居心地の良いステキな場所にして、快適に過ごす |
| | 職員同士でドライブや飲み会をする。季節を感じる場所へ行く |
| | 思い立ったら、さっと一人で美術館に出かける |
| | セグウェイツアーに参加する |
| | ホームパーティを開く |

Tsukuba Supporters

本学を内外から応援(サポート)していただいている団体を紹介します。

[図書館ボランティアとは] 地域の方々が、自身の生涯学習の一環として、本学附属図書館の利用者に対する援助を行っているボランティア活動です。



図書の修理



ボランティアカウンターでの利用者対応

本学は、平成7年に、生涯学習に対応した大学図書館サービスの実現を目指して、地域におけるボランティア活動の希望者に活動の機会を提供するため、国内の大学図書館にはほとんど例のない、「図書館ボランティア」の受け入れを開始しました。「図書館ボランティア」は、熱心な取り組みにより、その活動範囲を徐々に広げ、18年目を迎えた現在では、男性10人、女性39人の会員を擁し、本学図書館に欠かせない存在となっています。

現在、図書館ボランティアの主な活動は、次の3つで、全員がこのうちの1つ以上に参加して、月曜日から金曜日の午前か午後に、週1回(3時間)以上活動しています。同ボランティアとして登録されるためには、10時間程度の事前研修が必須となっており、多くの方は、①の総合案内から活動を開始しています。

① 図書館総合案内

中央図書館のボランティアカウンターで、館内窓口案内や資料探索、端末操作等の案内、身体に障害のある方や留学生の、

図書館利用の支援などを行います。ボランティアカウンターは、レファレンスデスクより気軽に利用できる窓口として利用者に親しまれています。

② 利用環境整備

中央図書館や体育・芸術図書館でのシェルフリーディング(書架の乱れを直す作業)や、図書の修理を行っています。

中央図書館での図書の修理活動は2年前から開始しました。「図書修理を指導していただくために招いた講師の山川輝男さんが、メンバーに加わって下さいました。山川さんの指導を受けながら、最近では、非常に古いために、業者も取り扱わないような書物の修理にまで取り組んでいます」と森田武会長。現在、本学図書館の書籍修理の大半を同グループが担っています。

③ 特殊資料整理

体育・芸術図書館では、美術館・博物館等の展示会の図録およびポスターの収集をしています。図録は整理されていましたが、

ポスターは保存のみという状態になっていたため、平成11年度より、図録とポスターの両方を体系的に整理し利用に供する目的で、図書ボランティアがポスター整理をしています。

これらに加えて、中央図書館対面朗読室における視覚障害者のための朗読サービスなど、さまざまな活動(表参照)を行っています。

膨大な資料を抱える図書館を熟知して、利用者が求める資料を探し出し、対面朗読サービスを行うことができるボランティアの存在は、利用者にとって、とても心強い存在です。

「今までの経験を生かして、つくば市と東京のグループで、朗読ボランティアの指導者をしております。ここは、私にとって、実践と学習の場です」とは、16年間にわたり、対面朗読の活動をしている柳澤由紀子さん。

「活動自体が生涯学習であり、活動するために必要となることを勉強することもまた生涯学習です」(海津裕子さん)というように、グループのみなさんが、楽しく、有意義に活動している様子が伝わってきました。



ボランティア控室でのミーティング

図書ボランティアのさまざまな活動

- 高校生など学外からの見学者に対しての図書館見学案内
- 折り紙講習などを行う外国人のための日本文化紹介
- 利用案内等の翻訳
- 図書館公開事業への協力
- 広報紙『うたがき』の発行
- 学内・学外施設見学など各種研修の実施

同会の活動について、より詳しく知りたい方は、下記を参照にしてください。

附属図書館ボランティア <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/portal/volunteer.php>

本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

【茗溪会とは】 一般社団法人茗溪会(江田昌佑理事長)は、筑波大学同窓会を母体とする公益法人で、1882年に設立されました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校(東京教育大学、東京文理科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など)の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4000人を数え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

茗溪会が「教職受験対策研修会」を主催



研修会で講義を聴く学生たち

教職を希望する筑波大学生に対して、茗溪会と財団法人筑波学都資金財団が主催する「教職受験対策研修会」が3月12日から14日までの3日間、筑波研修センターで開催されました。今年で27回目。

講義は、I「教員採用試験の概要と受験対策」で、清水進一氏(元神奈川県立高校長)が、最近3年間の都道府県及び政令指定都市ごとの各校種別、教科別の募集人員・受験人員・倍率等の詳細な資料を紹介し、公立・私立の教員採用試験の概要と受験対策を指導されました。講義II

チューターとして指導に当たっていただきました。研修会ではさらに、個人面接、集団面接、集団討論、論文作成についての指導が3日間にわたって行われました。



合格体験生による集団討論のデモンストレーション

「我が国の教育の今日的な課題」では、飯田國雄氏(元東京都立高校長)が、教育基本法と教育三法の改正・学習指導要領の改訂・生徒指導上の諸問題・学校評価等についてたくさんの資料に基づき講義されました。

また、昨年度合格した学生5人からは合格体験談を話していただき、研修会の

受講者からは次のような感想をいただきました。

「研修会のどのプログラムもさまざまな視点・考え方を学ぶことができる内容で、ためになりました。仲間の輪も広がりました。」(教育研究科 中学英語を受験予定)

「茗溪会が筑波大学の学生を支援して下さることは、非常にありがたいことです。採用試験に合格したら来年の研修会では後輩のためにサポートしたいと思います。」(人文学類 高校地歴を受験予定)

「小論文の作成・読み合わせ・個別指導、個人面接・集団面接に加えて最近多くの県で教員採用試験に取り入れている集団討論の練習など、全てにおいて学ぶことが多く、きめ細かい指導をしていただき大変ありがとうございました。」(看護学類 養護教諭を受験予定)

「これからの教員採用試験に向けてのモチベーションが高まりました。採用試験に向けて一緒に頑張っていける仲間が、この会でできて良かったです。」(数理工学 科学研究科 高校物理を受験予定)

卒業生に茗溪会筑波大学支部賞を授与

本学の教職員からなる茗溪会筑波大学支部が、母校筑波大学を支援するための事業の一環として取り組んでいる「茗溪会筑波大学支部賞」として、本年3月24日、学類毎に23年度卒業生21名に、表彰状および副賞が授与されました。この茗溪会支部賞は、各学類等から1名「クラス代表等」とおして学生や大学のため

に顕著な活動を行った卒業生」を顕彰するもので、各学類からの推薦理由は、学業の他、学類 PRや大学説明会等学類企画への積極的貢献、クラス代表や全代会、スポーツデーなどに学生委員として貢献、その他社会貢献活動などがあげられています。今年の実賞者はつぎのとおりです。

花岡沙代(日本語・日本文化)／池田寛行(社会)／町田健登(国際総合)／柳川仁美(心理)／竹の子さつき(障害科学)／長友亘(生物)／安藤愛(生物資源)／飛山翔子(地球)／田村優介(数学)／実川克彦(物理)／山岸航大(化学)／藤崎浩孝(応用理工)／水野拓郎(工学システム)／干畑智絵(社会工学)／武田慎之介(情報科学)／松野涉(知識情報・図書館)／昌子佳晃(情報メディア創成)／杉田宗一郎(医療科学)／古谷真悟(体育)／原口寛子(芸術)／齊藤崇(理療科教員養成施設)



生命環境学類での表彰
後列左から、飛山祥子さん、長友亘さん、安藤愛さん
前列左から、佐藤支部長、岡野茗溪会理事、田林学群長

Tsukuba Supporters

本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

〔紫峰会とは〕 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業（援助金の支給など）、学生生活支援事業（緊急貸付金、コピーサービスなど）、広報・普及事業（紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など）です。学生の保護者、卒業生とそのご父母の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。

UTshopとは

UTshopとは、紫峰会〔筑波大学学生後援会〕が運営する、筑波大学オリジナルブランド「UTcollection」の販売や低価格コピーサービス等を提供している店舗で、大学会館本館2階と追越生活センター2階にて営業しています。大学会館店の入り口上部には、西川潔教授（当時）デザインのUTshopのロゴのネオンサインがあり、お店の目印になっています。また、インターネット上にも「UTshop on Line」を設置し、UTcollectionのWEB通信販売を行っています。

UTshopという名称には「筑波大学（University of Tsukuba:UT）を代表するお店（shop）」と「UTcollectionを販売するお店」という意味があります。大学会館にて行われた学会の懇親会に合わせて営業時間を延長する等、数多くの期待にも応えてきました。また、入学式や学園祭の時には、店舗の壁になっているシャッターを開け、什器の配置を変えたりしてお客さんが利用しやすいように工夫しています。

UTshopの歴史

平成18年より、「筑波大学一紫峰会〔筑波大学学生後援会〕連携ワーキンググループ」にて、紫峰会のあり方について協議を重ねました。その結果、平成19年10月、紫峰会の事務所を学外から大学会館本館4階に移転させ、同2階にユニバーシティショップとして筑波大学グッズを販売する店舗を紫峰会が設置することになりました。これが「UTshop大学会館店」です。UTshop開店の際には、岩崎洋一学長（当時）や学生の代表らによるテープカットが行



UTshop大学会館店

われました。また、平成6年から営業していた「紫峰会追越店舗」の名称も「UTshop追越店」とすることで、主にUTcollectionを取り扱う紫峰会の店舗をUTshopとして統一しました。その後も、学生証Felicaカード販売やADOBE製品の販売取次など、さまざまな学内の意見要望を取り入れ、UTshopならではのユニークなサービスを提供しています。



UTshop追越店

伸びる大行列となりました。

このように、UTshopには毎年数万人が来店することから、Tsukuba Communicationsや筑波大学新聞などの学内広報物を店頭にて配布し、大学の広報活動にも一役買っています。これからもUTshopに一人でも多くの方に立ち寄っていただき、筑波大学の顔として、「筑波大学ファン」を増やしていきたいと思っています。



入学式で賑わう店内の様子

サービスメニュー

- UTcollection販売
- コピーサービス
- FAX送受信サービス
- 学生証Felicaカード販売
- ADOBE製品販売取次
- 筑波大学公式ロゴタイプ名刺制作
- プリントアウトサービス※1
- 大判プリント※1
- ラミネート※2

※1 追越店のみ行っています。

※2 追越店と紫峰会事務所にて行っています。

大学の広報拠点としてのUTshop

UTshop大学会館店はその立地から、多くの来学者が訪れます。入学式や卒業式では、学生やその家族で店内は埋め尽くされます。平成21年の筑波大学の酒「桐の華」販売開始時には、新聞やテレビの報道を聞きつけ、学内者だけでなく地元の方々までもが来店し、店の外まで



岩崎洋一学長（当時）らによるテープカット

Media Appearances 本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(4月~6月)

● 新聞記事一覧

	記事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	医師不足などの解消を目指し、土浦市と本学、国立病院機構霞ヶ浦医療センターで締結した寄付講座が開設され、整形外科の外来診療復活の他、呼吸器科、循環器科、耳鼻咽喉科の医師と病理診断医が増員された	本学	茨城(4.3) 毎日(4.4)
2	本学と理化学研究所、慶大などの研究グループが、水中の放射性セシウムを藻に吸着させて取り除く装置を開発	白岩善博教授(生命環境系)	読売(4.3) 朝日(4.26)
3	文部科学省が、がん医療に携わる専門医療人を養成する大学の取り組みを支援する推進プラン15件を決定。本学を中心とした「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」プログラムも選定された	陽子線医学利用研究センター	常陽(4.2)
4	知能発達ロボティクスについて。本学鈴木健嗣准教授が「痛みを感知するロボット」を開発	鈴木健嗣准教授(システム情報系)	日刊工業(4.4)
5	本学アートスペースで、「山本文彦名誉教授洋画自選展」開催	山本文彦名誉教授	茨城(4.4) 茨城(4.12)
6	9日に、本学入学式。入学者数は、学部生2162人、編入生116人、院生2313人	山田信博学長 松村美穂(体育専門学群1年) 江幡知佳(人間学群1年) 安達学(理工学群1年) 関瑞穂(情報学群1年) 新井優子(情報学群1年) 佐野達彦(理工学群1年) 寺尾友貴(理工学群1年) 本学管弦楽団	朝日(4.10) 毎日(4.10) 読売(4.10) 東京(4.10) 茨城(4.10)
7	宇宙開発機構が13年度に打ち上げ予定のH2Aロケットに搭載予定の小型衛星からデータを発信し、手製アンテナで受信する実験を計画。子どもたちの科学技術への関心を高めるのが狙い	亀田敏弘准教授(システム情報系) 岡村彩乃(システム情報工学研究科 博士前期1年) 浅井英介(システム情報工学研究科 博士前期1年)	毎日(4.10)
8	▽秋入学 こう考える⑦:山田信博学長が、「秋の入学の実現には課題は多いが、まずは大学の教育研究の革新につながるかどうかを考察すべき」と指摘	山田信博学長	日本経済(4.16)
9	守友浩教授は、顔料の一種ブルシアンプルーを構成するイオンを使って、セシウムイオンが溶けた溶液からセシウムイオンを除去する方法を開発	守友浩教授(数理物質系)	日刊工業(4.16)
10	▽臨床するアート~筑波大生の活動より~ (上):暗い物置のような附属病院の渡り廊下が、アートの力で明るい憩いの空間に変身 (中):入院患者とアートのワークショップ開催 (下):臨床現場におけるアート活動の成果は、医師の届かぬ領域へ新たな可能性を広げている	附属病院 学生グループ「アスパラガス」 (上)岩田祐佳架(人間総合科学研究科 博士課程前期1年) (中)大政愛(芸術専門学群3年) (下)五十嵐徹也(附属病院長 中島靖雄(芸術専門学群3年)	(上)茨城(4.16) (中)茨城(4.23) (下)茨城(4.30)
11	本学サッカー部監督風間八宏氏が、J1川崎の監督に就任	風間八宏(前本学講師)	朝日(4.19) 朝日(4.20) 朝日(4.24) 毎日(4.24) 読売(4.24) 日本経済(4.24)
12	藤原宣也さんが、東日本大震災の被災者を支援する本学生の有志団体「Tsukuba For 3.11」の協力を得て、被災地で開催される「復興祭」で使用するキャンドルスタンド約1100個を竹筒を用いて製作。	藤原宣也(生命環境科学研究科 博士前期2年) Tsukuba For 3.11(被災支援団体)	茨城(4.20)
13	世界エアロビ選手権で、本学の諏訪部和也さんが、男子シングルス、ミックスペア部門ともに7位で予選通過。決勝で、男子シングルス8位、ミックスペアで6位となった。	諏訪部和也(人間総合科学研究科 博士前期2年)	毎日(4.22)毎日(4.23)
14	本学三谷純准教授と五十嵐悠紀研究員は、複雑なビーズ細工をPCで簡単にデザインできるツールを開発	三谷純准教授(システム情報系) 五十嵐悠紀研究員(システム情報系)	日刊工業(4.26)
15	本学は26日、鹿屋体育大学と連携協定を締結。今後、学部学生の単位互換や実習の相互乗り入れ、運動部の合宿交流、共同研究などを促進していく予定	山田信博学長 久野謙也教授	茨城(4.27) 読売(4.27) 常陽(4.27) 日本経済(4.27) 夕 東京(5.1)
16	本学は、運動部ユニホームをスクールカラーのフューチャーブルーに統一。校章、エンブレム、ロゴマークも統一	山田信博学長 内田啓太(体育専門学群4年)	茨城(4.27) 常陽(4.28) 東京(4.30)
17	バドミントン五輪代表11人決定 混合ダブルス 池田信太郎・潮田玲子	池田信太郎(OB、日本ユニシス)	朝日(5.4) 毎日(5.4/9) 日本経済(5.4/9)
18	日下博幸准教授らの研究グループは、地球温暖化に歯止めがかからない場合、2070年代の東京都心の8月は、夕方まで外で遊べないほど暑さが厳しく、夜も連日熱帯夜になるとの予測を発表	日下博幸准教授(生命環境系 計算科学センター)	日本経済(5.10)
19	柔道の五輪代表選手が決定。男子60kg級・平岡拓晃、女子48kg級・福見友子、女子78kg級・緒方亜香里、女子78kg級超級・杉本美香が代表入り	平岡拓晃(人間総合科学研究科 博士前期2年、了徳寺学園職) 福見友子(OG、了徳寺学園職) 緒方亜香里(体専4年) 杉本美香(OG、コマツ)	朝日(5.14) 毎日(5.14) 読売(5.14) 東京(5.14) サンスポ(5.14) 日本経済(5.14) 産経(5.14) 茨城(5.14)
20	東日本大震災の被災者を支援する本学生の有志団体「Tsukuba For 3.11」が、竜巻被害の北条商店街の一角に、足湯をオープン	Tsukuba For 3.11(被災支援団体)	毎日(5.20)
21	日本の大学が、海外からの留学生争奪戦。本学は、現在5カ所ある海外事務所をさらに増やすことを検討中。	森尾貴広准教授(国際部国際企画課 北アフリカ研究センター)	毎日(5.23) 夕
22	福島県にある東日本大震災の避難者の仮設住宅で、本学などが取り組んだ健康支援プロジェクト実施から半年。高齢者の体力指標が若返るなどの効果が明らかになった	久野謙也教授(体育系) 山縣邦弘教授(医学医療系)	日本経済(5.27)
23	本学の岡田晋准教授と小鍋哲研究員らは先端素材のカーボンナノチューブ(筒状炭素分子)で太陽電池を作ることにより、シリコンの性能を上回るという計算結果をまとめた	岡田晋准教授(数理物質系) 小鍋哲研究員	日経産業(5.30)
24	金森由博助教(システム情報系)らは、水面の画像に、別の画像を合成する際に、水面への映り込みを自動で再現できる画像編集ソフトを編集	金森由博助教(システム情報系)	日刊工業(5.31)
25	竜巻被害のつくば市北条地区で、安藤邦廣教授と藤川昌樹教授らのチームが現地調査を実施、大半が修復可能と公表	安藤邦廣教授(芸術系) 藤川昌樹教授(システム情報系)	毎日(6.2) 夕 毎日(6.3/9) 朝日(6.6) 茨城(6.6) 常陽(6.6)
26	本学附属病院が、国際戦略総合特区に関する臨床研究シンポジウムを開催	櫻井英幸教授(医学医療系) 山海嘉之教授(システム情報系)	毎日(6.5)
27	林純一教授らが、細胞内の小器官「ミトコンドリア」のDNA変異が、糖尿病やリンパ腫を引き起こすと発表	林純一教授(生命環境系)	読売(6.12) 茨城(6.12) 日刊工業(6.12) 日本経済(6.12) 日経産業(6.13)

● テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	竜巻、都市型豪雨の発生原因、関連性	日下博幸准教授(生命環境系 計算科学センター)	テレビ朝日報道ステーション(5.10)
2	柳沢正史教授が登場したFIRSTサイエンスフォーラムの様相	柳沢正史教授(分子行動科学研究コア)	NHK Eテレ TVシンポジウム(5.19)
3	大学および「やどかり祭」、「つくばマラソン」授業紹介など(公開生放送)	鍋倉賢治教授(体育系) 本学学生	NHK 水戸 ニュースワイド茨城(5.24)

※所属、職名、学年は平成24年6月現在

[july]

- 4日(水) 夏季休業
合格発表(ACII)
- 5日(木) 大学院入試「推薦」
- 8日(日) 法科大学院説明会
- 9日(月) 入学試験「2学期推薦」
入学試験「編入学」(~10)
- 17日(火) 合格発表「2学期推薦/編入学」
- 24日(火) 平成24年度学校図書館司書
教諭講習(~8/2)
- 25日(水) 第1学期卒業式・大学院学位記授与式
- 27日(金) 国際会議・ワークショップ
プラズマ研究センター(~31)
- 30日(月) 大学説明会(~8/1)



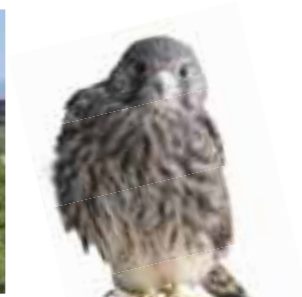
[september]

- 3日(月) 第2学期授業開始
- 6日(木) 計算科学研究センター20周年
シンポジウム(~7日)

[august]

- 3日(金) 入学試験「編入学(知識)」(~4)
- 10日(金) 合格発表「編入学(知識)」
- 17日(金) 日本生物学オリンピック2012本選
(つくば大会)~20日
- 21日(火) 大学院入試「8月期」~24日
- 27日(月) 第2学期入学式





筑波大学
University of Tsukuba